

第二十六回 貴族院議事速記録第十六號

明治四十三年三月十八日(金曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第十六號 明治四十三年三月十八日

午前十時開議

- 第一 會計検査院法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第二 電氣事業法案(政府提出案) 第一讀會
- 第三 關稅定率法改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第四 耕地整理法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第五 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第六 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第七 東京市區改正條例中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第八 皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者ノ戶籍ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第九 北海道土功組合法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十 警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十一 輕便鐵道法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十二 各國國勢調查事業觀察ニ關スル建議案(伯爵柳澤保會) 議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔河井書記官朗讀〕

昨十七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決

貴族院議事速記録第十六號

明治四十三年三月十八日

議長ノ報告

ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案

那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律案

補助航海ニ從事スル商事會社ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル衆議院提出立木ノ先取特權ニ關スル法律案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ否決シタル衆議院提出拘留ニ關スル裁判法案ハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案特別委員會

委員長 子爵裏松 良光君 副委員長 男爵野村 素介君

耕地整理法中改正法律案特別委員會

委員長 男爵目賀田種太郎君 副委員長 伯爵松平 賴壽君

登錄稅法中改正法律案特別委員會

委員長 下條 正雄君 副委員長 小牧 昌業君

災害地租特別處分法案特別委員會

委員長 伯爵清棲 家教君 副委員長 男爵目賀田種太郎君

貴族院伯爵子爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正建議案特別委員會

委員長 侯爵花山院 親家君 副委員長 富井 政章君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

關稅定率法改正法律案修正報告書

製鹽地整理ニ關スル法律案可決報告書

北海道土功組合法中改正法律案可決報告書

耕地整理法中改正法律案可決報告書

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案可決報告書

皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者

ノ戶籍ニ關スル法律案可決報告書

請願文書表第八回報告書

同日特別委員副委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案可決報告書

罹災救助基金法中改正法律案可決報告書

東京市區改正條例中改正法律案可決報告書

輕便鐵道法案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

會計検査院法中改正法律案

電氣事業法案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

戰疫豫防法中改正法律案

軍人恩給法中改正法律案

官吏恩給法中改正法律案

裁判所構成法中改正法律案

辯護士法中改正法律案

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、議事日程第一、會計検査院法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔仙石書記官朗讀〕

會計検査院法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十七日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

會計検査院法中改正法律案

第二條中「書記官二員検査官補二十員及屬若干員」ヲ「書記官專任一員副検査官專任十四員及書記技手」ニ改ム

第三條 院長及部長ハ勅任、検査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副検査官ハ奏任、書記及技手ハ判任トス

勅任検査官書記及技手ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中「非職」ヲ「休職」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ會計検査院ノ職員タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ検査官補ハ副検査官ニ、屬ハ書記ニ、速記技手ハ技手ニ任セラレタルモノトス

○政府委員安廣伴一郎君演壇ニ登ル

○政府委員(安廣伴一郎君) 今回ノ行政整理ニ伴ヒマシテ會計検査院ノ人員ヲ減少イタシマスルノガ本案ノ趣旨デゴザイマス、其他一二ノ修正ヲ致シマス、御賛成アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、電氣事業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔仙石書記官朗讀〕

電氣事業法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十七日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正ハ同削除ノ符號〕

電氣事業法

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スル事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用キル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マムトスル者ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ

外主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ著手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ

主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

電氣事業者指定ノ期間内ニ事業ヲ開始セサルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ料金其ノ他電氣供給ノ條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

六 ○氣工作物ノ施設ニ關スル

第七條 電氣事業者ハ電線路ノ測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケ且少

五 ○市町村長ニ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ
クトモ三日前ニ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非サレハ占有者ノ意ニ反シテ邸宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第七條 電氣事業者ハ電線路ノ施設及保守ニ障害ヲ及スヘキ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ所有者ト協議調ハス

又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨所有者ニ通知スヘシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 電氣事業者ハ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供

セラレタル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ

管理者タル地方行政廳ニ於テ正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第九條 電氣事業者ハ必要アルトキハ建造物ノ存在セサル他人ノ土地ニ電

線ノ支持物ヲ建設シ又ハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ○其ノ地

上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設○スルコトヲ得
○シ又ハ建造物ノ存在セサル他人ノ土地
ニ電線ノ支持柱ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル場合ニ於テ其ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十一條 電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ前條ニ依リ電線路ヲ施設

シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ電線路ノ移轉其ノ他障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲ササルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條 第七條、第八條及第十條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ電氣

事業者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ之ヲ裁定ス裁定ニ不服

アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十三條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 主務大臣ハ工地上已ムヲ得スト認メタル場合ニ於テハ電氣事業者ニ對シ電線路ノ共用ヲ命スルコトヲ得

第十五條 電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スル爲必要ナル施設ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前三條ニ依ル工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ條件ハ命令ヲ以テ定ムルモノノ外當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣ハ電氣事業審査會ノ議決ヲ經テ之ヲ裁定ス

電氣事業審査會ノ組織、權限其ノ他ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 第一條ニ掲クルモノノ外電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十八條 電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九條 電氣事業者ノ承諾ヲ得シテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ本法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣男爵後藤新平君 電氣事業法案ノ提出ノ理由ヲ述べマス、電氣事業ノ發達ハ著シキモノデアリマシテ、申上ゲルマデモナク之ニ對スル制度ノ必要ニ迫ッテ居ル譯デアリマス、現今帝國ニ於キマシテモ既ニ發電力ハ四十万「キロワット」ニ達シテ居リマシテ將來益々發達スル勢ヲ呈シテ居リマス、從來電氣事業ニ關係イタシマシテハ法文ノ備ハラザルモノガアル爲ニ監督上ノ不十分ヲ免カレザル點ガ少ナカラヌ譯デアリマス、之ガ爲ニ其事業ニ伴フ所ノ發達ヲ助長スル手段ヲ缺クヤウニナッテ參リマシテ、益々法律ノ制定ヲ必要トスル譯デアリマス、其事ニ付キマシテハ泰西諸國ニ於キマシテモ十分攻究ヲ致シテ監督ノ方法ヲ詳密ニ致スコトニナッテ居リマス、其方法ハ各國共ニ軌ヲ一ニシテ居ル所デアリマス、我ガ帝國ニ於テモ内外ノ事情ニ鑑ミマシテ本法ノ制定ヲ必要ト致シテ次第デアリマス、之ガ爲ニハ需要ト供給者トノ間、竝ニ其他ノ關係ニ於テ中庸ヲ得ルノ道ヲ攻究イタシマシテ本案ヲ提出イタシマシタ、衆議院ニ於テモ多少修正ヲ加ヘラレマシタ、併ナガラ其修正ノ同意ヲスベキモノハ總テ同意ヲ表シマシタ、遺憾ナガラ第六條ノ修正ニ對シテハ政府ハ同意ヲ表スルコト能ハザル次第デアリマス、尙ホ本院ニ於テ審議ノ上、政府ノ意ノ在ル所ヲ十分御諒察イタサレマシテ、御協賛ヲ得ムコトヲ希望イタシマス

○田中芳男君 政府委員ニ御尋ネ致シタウゴザイマスガ、先般電氣ニ關係シマシタ法案ガ出マシタ頃ニ、本員ハチヨット御質問イタシタコトガアル、電氣ト云フモノハ誠ニ結構ナモノデアアルガ、時ニヨルト人ヲ殺シ家ヲ燒クト云フコトガアル、其方ノ締ハ何カ付クコトガアリマスマイカト云フコトヲ御尋ネシタト思ヒマス、其頃政府委員ノ御説ニ、何レサウ云フヤウナコトハ別ニ法案ヲ出ス積リデアルト云フコトヲ承リマシタガ、今日ノ此法案ニハ、ソナコトガ無イヤウニ思ヒマス、アルカモ知レマセヌガ私ノ目ニハ見エマセヌガ、尙ホ其邊ノコトニ付イテハ別ニ御備ヘニナル譯デアリマスカ、是ハ先ヅ是ダケノコトハ別段何モ出来マセヌデゴザイマスカ、ソレヲ承リタウゴザイマス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 唯今、田中君ノ御質問ニ對シマシテ御答イタシマスガ、本案ニ依ッテ諸般ノ電氣事業ニ對スル危害ヲ豫防スルコトハ攻究イタシマスル積リデアリマス、之ヲ原則ニ致シマシテ十分、警察的ノ施設ノ備ハルヤウニ致サウト思ッテ居ルノデアリマス、現ニ第十一條ノ如キモ其原則トナルベキモノデアリマスル

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、關稅定率法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、黒田侯爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

關稅定率法改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員長

侯爵 黒田 長成

貴族院議長公爵德川家達殿

〔特別委員ノ修正ニ係ル部分ノミナ載録ス、
小字ハ委員會ノ修正、ハ同創設ノ符號〕

第六條 米及穀ノ輸入税ハ凶作ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ毎

百斤六十四錢ヲ限度トシ之ヲ低減スルコトヲ得

第七條 左ノ物品ニハ輸入税ヲ免ス

十七 輸出シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖及第八條又ハ第九條ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク
第八條ヲ第七條ニ改メ第九條以下第十一條迄條數ヲ順次繰上ク
(別表)

輸入税表

番號 品 名 單位 稅 率

第二類 穀物、穀粉、澱粉類及種子

一二 米及粃

每百斤 一〇・六四

一三 大麥

同 〇・五五

一六 小麥

同 〇・六〇

二一 豆類

同 〇・七七

一 大豆

同 〇・七〇

二二 穀粉及澱粉類

同 一・八五

一 小麥粉

同 無稅

二七 棉子

同 無稅

第五類 油、脂、蠟及其ノ製品

九五 植物性揮發油

一 芳香性ノモノ

無稅

甲 桂皮油

每百斤 一六・二〇

乙 シトロネラ油

同 一〇・七〇

丙 ラグエンダー油

同 二五・二〇

丁 バーガモット油

同 四〇・六〇

戊 アニシード油

同 二〇・〇〇

己 レモン油

同 二五・〇〇

庚 サンデル油

同 四三・二〇

辛 其ノ他

從價割

第六類 藥材、化學藥、製藥、其ノ調合品及爆發藥

一七六 クロール酸加里

一七七 重クロロム酸加里

第七類 染料、顏料、塗料及填充料

二二六 天然藍

一 乾キタルモノ

二 液狀又ハ泥狀ノモノ

二二七 人造藍

一 乾キタルモノ

二 液狀又ハ泥狀ノモノ

二四三 アリザリン染料、アニリン染料其ノ他別號

ニ掲ケサルコールタル染料

〔侯爵黒田長成君演壇ニ登ル〕

○侯爵黒田長成君 委員會ノ報告ヲ致シマスニ先ダチマシテ報告書中ニ訂正ヲ致ス廉ガゴザイマスカラ申上ゲテ置キマス、第二類ノ「棉子」無稅ト云フノハ是ハ餘計ナモノガ印刷ニナツテ居リマスノデ、是ダケハ無イモノト御承知ヲ願ヒマス、關稅ノ改正ハ國家ノ經濟上ニ關係ガアリマスノミナラズ、國際上ニモ關係ノアルコトデゴザイマス、此關稅ノ改正ハ是ノ決定如何ニ依ッテハ、内ニ於テハ國家ノ産業上ニ大影響ヲ及ボスノミナラズ、社會ノ各階級ヲ通ジテ其利害ガ大ナル影響ヲ及ボスモノデアリマスガ、尙ホ外ニ於テモ貿易ノ消長ニ重大ナル關係ガアツテ、外交上諸般ノコトニ波及スルコトヲ免レナイノデアアル、ソレ故ニ是ハ餘ホド重要ナル議案デアリマスカラシテ、委員會ニ於テモ努メテ慎重ニ調査ヲ致シマシテゴザイマス、去ヌル十日ニ委員ニ付託セラレマシテ翌十一日正副委員長ノ選舉ニ引續イテ會議ヲ開キマシタ、其當日委員ハ多ク出席ニナツテ數時間政府ト質疑應答ヲ致シマシタ、翌日モ同様ノコトデ、ソレカラ十四日ニモ引續イテ審議ヲ續ケマシタ、ソレカラ各委員ニ於テ篤ト熟考ヲスル爲ニ少シク猶豫ヲ致シテ昨日討議ノ末、唯今議長

同	從價	每百斤	從價	每百斤	同	從價	每百斤
七、〇〇〇	四、六〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、三、七〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	無
割	割	割	割	割	割	割	稅

ノ手許マデ報告イタシタヤウニ委員會ニ於テハ修正議決イタシマシテゴザイマス、先ヅ條文ノ方カラ申述べマスガ、衆議院デ新ニ加ヘマシタ第六條、是ハ委員會ニ於テハ削除スベキモノト決シマシタ、是ハ別表ノ所ニ關係ガアリマス、其別表ニ於テ矢張り修正ヲ致シテ、即チ政府案ニ復活イタシタノデアリマスカラ、其結果當然ニハ削除ニナリマス、此凶作ノ場合ト云フノハ普通ノ勅令ヲ以テ定メルト云フコトハ如何ノモノデアラウカ、斯ノ如キコトハ一層重イ所ノ緊急勅令ヲ以テ定メル方ガ穩當デアアル、政府ガ責任ヲ取ツテ緊急勅令ヲ發スベキモノデアアル、且ツ此凶作ノ場合ニハ最低限度ヲ此所ニ示シテ置クト云フコトハ大變ニ害ノアルコトデ、斯ノ如キ場合ニハ無稅ニモ致サネバナラスコトモアル、其他輸入ノ獎勵ヲ努メナケレバナライノデアアル、ソレ故ニ是ハ衆議院ノ修正ニ同意スルコトハ出來マセス、然ルニ政府案ノ第三條ト云フモノハ衆議院ニ於テ全部削除シテ居リマスガ、此方ハ衆議院ノ案ガ宜シカラウト云フノハ實際、從價稅ニ代ヘルニ從量稅ヲ以テスルト云フ場合ハ其數ガ至ッテ少ナイ、デ實際上カラ差支ノナイコトデアアル、其上勅令ヲ以テス様ナコトヲ決メルヨリハ矢張り法律ヲ決マル方ガ普通ノコトデアアルカラ、一々法律ヲ以テ決メナケレバナラスコト云フホド多數ノコトモ無イカラ、不便モナイ、是ハ衆議院ノ削除說ガ至極穩當デアラウト云フコトニナリマシタ、ソレカラ衆議院ノ案、即チ原案ノ第七條「十」ト云フ所ニ「及私立ノ專門學校」ト云フモノガ衆議院デ加ヘテアリマス、是モ衆議院ノ考ガ宜シカラウト思ヒマス、官立公立ノ學校ト此私立ノ專門學校デモ、例ヘバ早稻田大學ノ如キ、慶應義塾ノ如キ、官公立學校ト比肩シテモ少シモ劣ル所ノ無イモノナドモアリマスカラ、權衡上無論加ハル方ガ適當デアルト云フコトニ致シマシタ、ソレカラ今ノ條ノ「十七」ト云フ所ニ「八條」トアルノガ「七條」トナリ「九條」トアルノガ「八條」トナリ、ソレカラ以下ノ條數ハ自然ノ結果デ順次繰上ガルト云フコトハ當然ノコトデアリマス、次ニ別表ニ付イテ申シマスガ、第二項ノ「米及粳」、「大麥」、「小麥」、ソレカラ豆類ノ「大豆」、ソレカラ「小麥粉」、斯ウ云フモノハ日用品ト看做シテ、經濟上ノ原則カラ申シテモ成ルベク低稅ニスルト云フコトガ相當ノコトデアアル、若シ之ニ高稅ヲ課スルト云フコトニナレバ、物價賃銀等ノ騰貴ヲ來タシテ下級人民ニ苦痛ヲ與ヘルコトニナル、ソレデ單ニ一部ノ農業ニ關係アル物ヲ保護スルト云フ目的ノ爲ニ増率ノ必要ガアルト云フコトナラバ、ソレハマダ他ニモ種々保護ノ方法ガアラウト思フ、耕

地整理ナリ農具ノ改良其他金融ヲ付クル上ニ於テ他ニ方法ガアルコト、思フ、全般ノ上カラ見テ單リ收入ヲ得ルト云フ目的ノミナラズ、産業ノ全體ノ發達カラ考ヘテ之ヲ餘リ高稅ニスルト云フコトハ宜シクナイ、デ是ハ政府案ニ復活スベキモノデアル、謂ハユル衣食住ノ食ト云フ所ニ當ルノデアリマス、其次ハ第五類ノ「芳香性ノモノ」、是ハ御承知ノ通り内地デハ出來マセヌ、石鹼ノ原料トナルベキモノデアリマス、而シテ此石鹼ノ輸出ハ年々逐ウテ進ミツ、アツテ將來益、獎勵ノ必要ガアル、故ニ是ガ原料ハ餘リ高稅ヲ課スルコトハ宜シクナイ、是モ政府案ニ復活スベキモノデアルト決シマシタ、ソレカラ「クロール酸加里」ハ是モ御承知ノ燐寸ノ原料デアリマシタ、燐寸ノ事業ハ至ツテ、利益ノ薄イモノデアルニモ拘ハラズ、輸出品中ノ最重要ナルモノ、一デアツテ年々千万圓内外ノ額ニ上ボツテ、年々輸出額モ増進シテ、昨年ノ如キハ千數百萬圓ニ上ボツタト云フコトデアル、是モ政府案通り無稅ニ致シタ方ガ宜シイ、此所ニ於テチヨット申シマスガ、「重クローム酸加里」ト云フノガ此報告書ニ印刷シテゴザイマス、是ハ衆議院ニ於テ「クロール酸加里」ガ「毎百斤」ト云フコトニナツタ爲ニ、ソレデ「同」ト云フコトニ衆議院デ書替ヘテアリマス、然ルニ「クロール酸加里」ノ「毎百斤」ト云フモノヲ今申シタ通り削リマシタカラ、ソレデ「同」ト書クト云フト無意味ニナリマスカラシテ、「毎百斤」ト云フコトヲ入レタノデアリマス、ソレカラ「天然藍」ト「人造藍」ト、「アリザリン染料」其他ノ染料、此三點ニ付イテ何レモ政府案ノ通りニ復活スルコトニナリマシタ、藍モ内地デハ出來マシテモ十分ニ需要ヲ充タスニ足リマセヌ、殊ニ人造藍ノ如キハ中流以下ノ人ニ關係ノアルモノデアリマスカラ、謂ハユル衣食住ノ衣ニ重稅ヲ課スルト云フコトニ當ル、ソレデ斯ウ云フ染料ハ矢張り低率ニ致シテ置ク方ガ然ルベキモノデアル、是ハモウ普通經濟上ノ當リ前ノ道理デアラウト思ヒマス、委員會ノ決議ハソレダケデアリマスのガ、一言尙ホ……委員會ノ模様ヲ見マシテ各員ノ意向ヲ推察イタシマスレバ、此事ハ差當リ條約改正ニ重モニ關係ヲ有ツテ其期日モ餘ホド追ツテ居ル、デ此條約ノコトモ數十年前ヨリ官民ノ希望ト熱心ニ依ツテ稍、完全ナモノニナツタヤウデハアルケレドモ、マダ十分利權ノ恢復ト云フモノガ出來テ居ラナイ、謂ハユル片務的條約ナルモノニ支配サレテ、例ヘバ某外國ト稅率ヲ協定スルニ當ツテモ、利益ノ交換ガ無イニモ拘ラズ、最惠國條款ノ爲ニ大變、我國ハ不利ナル立場ニアルコトガアル、此度ハサウ云フ不利、不公平ト云フ

モノハ總テ除カレルコトニナル、主トシテ國定ノ主義ヲ採ツテ協定ハ例外ノコトニナルノデアリマス、此近ク來ラムトスル所ノ條約ノ改正ノ時期ニ際シマシテ、關稅ノ改正ヲスルト云フコトハ最モ其宜シキヲ得タモノデアルノデアリマスカラ、既ニ政府ニ於テモ提出前ニ慎重ニ調査シテ衆議院ニ提出サレタ様子デアリ、衆議院ニ於テモ慎重ニ調査ヲサレ、意見ノ異ナル所ヲ以テ本院ニ送付シテ參リマシタ、我々委員ニ於テモ國家全體ノ上カラ餘儀ナク修正ヲ加ヘナケレバナラスコトニナリマシタ、ソレモ委員ノ全會一致ヲ以テ期セズシテ符節ヲ合セタ如ク意見ヲ同一ニシタ次第デアリマス、諸君モ幸ニ委員會ノ報告ノ通り本案ノ速ニ可決セラレムコトヲ努メラレヤウニ希望イタス次第デアリマス、此段報告ヲ致シマス

○前田正名君 私ハ少々極簡單ニ述べタイト思ヒマス
○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ望ミマス

〔前田正名君演壇ニ登ル〕

○前田正名君 當議會ニ於キマシテ此關稅ノ問題ヨリ大ナル問題ハナイト心得マス、重大ナル事柄デゴザイマスルカラ長ク御話申シタウゴザイマスケレドモ、少シ不快ノ爲ニ極短ク御話ヲシタイト考ヘマス、ソレ故ニ言葉ハ切レノニナリマスルカラ、唯精神ヲ能ク御探リクダサルコトヲ望ミマス、私ノ希望ハ斯ノ如キ問題ニ付キマシテ常置委員ヲ置カレルコトヲ希望スル者デゴザイマス、此希望ハ決シテ前田ノ意見デハナイノデアリマス、多年ノ經驗上實際ニ付イテ此希望ヲ懷ク次第デアリマス、第一ニ此關稅ノコトニ付キマシテハ、決シテ戰爭ト變ルコトデナイ、全クノ戰爭ニ外ナラス次第デアリマス、其這入ル物ノ爲ニ大ニ利益ヲ得ルコトガアル、又這入ル物ノ爲ニ非常ナル損失ヲ受ケテ居ルノデアリマス、第一ニ綿ハ御承知ノ通り悉ク討死ニシタト言ハナケレバナラス、第二ニ砂糖、是ハ稍、望ガゴザイマス、第三ニ大豆ノ如キ、米ノ如キ、藍ノ如キ、悉ク我が帝國……農國ハ總テ是討死ニノ姿、併ナガラ原料ヲ輸入シマシテ之ヲ又外國ニ出ス、是ハ非常ナル利益ヲ得テ居ルノデゴザイマスカラ、這入ル物ニ付イテ非常ナル利益ヲ得ルモノハ又右申上ゲマスル如ク討死ニスルモノモゴザイマス、ソレ等ノ詳細ノ攻究ハナカク一週二週ヲ以テ調査ノ行届クモノデゴザイマセヌカラ、願ハクバ諸君ノ御贊成ヲ得マシテ、此常置委員ヲ置カレル方法ヲ議長閣下ニ御任セ申シタイト云フ希望デアルノデアリマス、尙ホ其次ニ申上ゲマスノハ、政府當局者ニ對シマ

シテ議論デハナイ注意ヲ與ヘルト云フコトハ、不肖ナガラ數十年ノ結果トシテ、經驗トシテ、大ニ效力ノアルモノデゴザイマス、又當局者ニ向ッテ實際其職ニ在リ其經驗ニ富ンデ居ル者モ、是亦參考トシテ非常ナル有益ノモノ、故ニ此常置委員ト云フモノガ政府ニ對シテ親シク局外ヨリ御參考ニ供スルコトハ最も必要ナコト、存ジマス、又政府ニ於カレテハ、此關稅ノ如キハ主務省デ殊ニ非常ナル御議論ガナクテハナラナイト考ヘマス、破レルホド非常ナル御議論ガ無クレバナラス、抑、此議會ニ提出セラル、トキニハ、此議場デハ格別ノ議論ガ無イ程ニナクテハナラナイト考ヘマス、定メテ非常ナル御議論ガゴザイマシタラウ、ケレドモ、是モ局外ヨリ種々經驗アル所ヲ御參考ニ供スルト云フコトハ必要ト考ヘマス、例ヘバ米ノ如キ、實ニ是ハ將來非常ナル問題デゴザイマス、又手近ク言フト、鹽ノ如キ、藍ノ如キ、主務省ノ大藏省ニアッテハ誠ニ必要ナ問題デアリマス、ケレドモ此鹽ニ對スル小作人ハ非常ナル人デゴザイマスルカラ、過激ニ此業ニ離レル曉ニハ行政官或ハ殖產ヲ獎勵スル所ノ農商務省ノ如キ、鹽ニシテモ、藍ニシテモ、此小作人ノ情況ニ付イテ、此過激ナル變動ヲ受クル代リニ、主務省ノ御手加減ハドウデアアルカト言フコト等ハ、是ハ親シク當局者ニ我々ノ如キ數十年間ソレノミニ始終心配ヲシテ居ル者、尙又ソレニ實際從事シテ居ル者ヨリ御聽キアルコトハ最も必要デアアル、其途ヲ立ツルニハ何レ此常置委員ニ向ッテ始終訴ヘルト云フ方法ハ誠ニ便宜ナ方法ト考ヘマス、マ是デ終リマス、ケレドモ、終リニ臨ンデ一言申上ゲテ置キマスノハ、我々數十年間、町村郡是ト云フモノニ始終心配シテ働イテ居ルノデアリマス、ソレハ全國ノ町村ヲ調べテ見マスルト、決シテ前田ノ意見デハアリマセヌ、總テノ事物ニ向ヒ、物其物ニ物言ハセテ見マスルト、悲イカナ全國各村ハ五十年ノ後ハ食ヒ物ガ無クナル、借錢ハ斯ク／＼ニ殖エル、租稅ハ斯ク／＼ニ上ボル、一ツトシテ安心スル村ハ無イノデゴザイマス、之ヲ大ニスレバ即チ海關稅、一家ニスレバ一家ノ歲出入デゴザイマス、ソレコレヲ思ヒマスト大切ナル問題ヲ僅ノ時間ニ決スルト云フコトハ實ニ容易ナラヌコト、考ヘテ居リマス、又海外ニ向ッテ出ル物ハ前ニ申上グル如ク非常ナル利益ヲ得テ金ヲ取ッテ來マスガ、ソレガ我が精兵、此第一ノ精兵トモ云フベキ我が殖產ノ兵隊ハドウシテ戰ッテ居ルカト云フト、一ツモ合格スル兵ハ無イト云ッテ宜シイ、不合格ナル兵ヲ以テ、ドウシテ勝利ヲ得ルコトガ出來ルカ、論ヨリ證據、日ニ／＼日ニ／＼數十年來、失敗ニ失敗

ヲ重ネテ居ル次第デアリマス、第一ニ米、此米ノ商賣人ト云フモノハ一人モゴザイマセヌ、我々當局者當業者ト能ク謀リマシテ、幸ニシテ生絲商人、茶ノ商人ト云フモノハ出來マシタケレドモ、殘念ナガラ、未ダ此第一位ニ位シテ居ル兵隊タル米ノ商人等ハ一人モ出來テ居ラナイ次第デアリマス、何ヲ以テ是カラ勝利ヲ得テ進ンデ行キ、我が日本帝國ノ目的ヲ達シテ行クコトガ出來ルカト云フト、決シテ海陸軍デハナイ、此兵隊ガ第一ニ進マナケレバナラスノデゴザイマスカラ、十分鄭重ニ之ヲ調査攻究スルニハ是非、常置委員ヲ置カレムコトヲ希望スルモノデアリマス、是等ノ方法仕組等ヲ完全シテ諸君ノ御贊成ヲ得タイト考ヘマスケレドモ、實ハ先ヅ、一兩年ハ此議場ニ上ボラナイ積リデアリマシタケレドモ、已ムヲ得ズ切ニ思フ餘リニ、甚ダ不完全ナ言ヲ以テ希望ヲ述ベルト云フコトハ御恥カシイ次第デゴザイマス、御贊成アラムコトヲ……

○田中芳男君　チヨット政府委員ニ御尋ネ致シタイ、本案ニ付キマシテハ委員長カラ委シク御辯明モアリマシタシ、又唯今前田君ガ建議サレタ所ノ御演說モ承リマシタガ、サテ其末ニ米ト云フコトニ付イテ御話ガアリマシタカラ、其米ニ付イテ、チヨット御尋ネ致シタイ、從前カラ關稅ノ米ト云フ書キ方ガ、イツデモ此度ノ案ノ如ク書イテアッタヤウニ思ッテ居リマスガ、全體此米ト云フモノニ、玄米モアレバ、白米モアレバ、粳モアルケレドモ、ソレヲ三ツトモ皆ゴツチャ交ゼニシテ置カヌナラヌト云フ理由ガドコニ在ルカト思ヒマスガ、今度ノ改正ナドニハ、ゴツチャ交ゼヲ止メテ、段階ヲ御付ケニナルコトカト思ヒマシタガ、矢張り玄米モ白米モ粳モ皆ゴツチャ交ゼニシテ同一ノ稅ヲ課ケルヤウニナリマシタガ、是ハ從前カラノ仕來リデアリマセウケレドモ、是ニハ何ゾ理由ガアリマスルカ、若クハ又白米ト玄米ト粳ト、等差ヲ付ケルニ及バヌト云フ理由デアッテ斯ウナッテ居リマスヤラ、其邊ハ十分御研究ノコト、考ヘマスカラ、一應其邊ヲ伺ヒマス

〔政府委員櫻井鐵太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(櫻井鐵太郎君)　唯今、米ノ輸入稅ノコトニ付イテ御尋ネデアリマスルガ、從來ヨリ米ニ付キマシテハ玄米、白米ノ區分ヲ致シマセヌ、米及粳ト云フコトニ致シテ、一律ニ課稅ヲ致シテ居リマス、米ノ輸入稅ヲ定メマシタノハ、御承知ノ通り三十八年ノ七月一日カラデアリマス、其當時百斤ニ付イテ六十四錢ト云フモノヲ算出イタシマシタノハ、從來日本ニ輸入イタシ

マス所ノ玄米、白米、總テ統計ヲ致シマシテ、其平均ヲ以テ百斤六十四錢ト云フモノヲ算出イタシタノデアリマス、而シテ其平均ノ中ニハ、玄米白米ノ區別ハ八ト二トノ割合ニナッテ居リマス、即チ白米ガ八、玄米ガ二、固ヨリ年ニ依ッテ多少ノ相違ハアリマスルケレドモ、從來輸入イタシマシタ所ノ米ハ、多クハ白米デアリマス、故ニ百斤六十四錢ト云フモノハ、主トシテ白米ノ率ヨリ算出サレタモノト申シテ宜シイノデゴザイマス、詰リ玄米及白米ト云フモノヲ平均イタシマシテ、此稅率ヲ算出イタシタ次第デアリマス、又之ヲナゼ區分イタサヌカト云フ御尋ネデアリマスルガ、外國ヨリ輸入イタシマス所ノ米ハ、實際ニ於テハ、玄米又精白米、割然タル區分ノアルモノハ少ナイノデゴザイマス、玄米ノ中ニ粳ガ這入ッテ居リ、又白米ノ中ニ玄米モ混入シテ居リマス、又碎ケ米モ這入ッテ居リマス、サウ云フヤウナ實況デアリマスカラ、課稅ノ上ニ於キマシテ、此玄米ト白米トハ區分スルト云フコトガ、大ニ煩雜ヲ生ズル虞モアリマスルカラ、唯今申シマスルヤウナ二ツノ理由ニ依リマシテ、今回ノ改正ニ於テモ、玄米、白米ノ區分ヲ致サナカッタ次第デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○田中芳男君　モウ少シ御尋ネ致シタウゴザイマス、唯今ノ御答ニ、白米ガ八デ玄米ガ二ダト云フコトデゴザイマスガ、粳ハドウナッテ居リマスカ、粳ハ輸入ハ無イノデゴザイマスカ、有ルンデゴザイマスカ

○政府委員(櫻井鐵太郎君)　御答イタシマスルガ、粳ノ輸入ハ殆ド無イト申上ゲテモ宜シウゴザイマス、至ッテ少量デゴザイマス

○議長(公爵德川家達君)　採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者　多數

○議長(公爵德川家達君)　過半数ト認メマス

○侯爵黑田長成君　直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○田中芳男君　賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君)　直チニ第二讀會ヲ開クト云フ黑田侯爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君)　御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君)　直チニ第二讀會ヲ開キマス、……全部ノ問題ニ供シマス、木村君ヨリ第二類ニ付イテ御意見ガアル趣デゴザイマスカラ、木村君ノ登壇ヲ促シマス

〔木村誓太郎君演壇ニ登ル〕

○木村誓太郎君　私ハ此第二類、米以下ノ稅ニ付キマシテハ、衆議院ノ修正ヲ賛成スル者デゴザイマス、聊カ其理由ヲ述ベヤウト思ヒマス、暫クドウカ御聽キヲ願ヒタイデアリマス、尤モ之ヲ説明シマスルニ付キマシテハ、種々折々數字ガ加ハリマスルデ、甚ダ御聽キニクイ所モアリマセウガ、暫ク御辛抱ヲ願ヒマス、本案ニ對シマシテノ意見ト云フモノハ根本的ニ穀物ノ課稅ヲ可否スルト云フ問題デナクシテ、米ニハ六十四錢ヲ課稅スルノガ適當デアルカ、或ハ一圓ノ課稅ヲスルノガ適當デアルカト云フ問題デアリマス、謂ハユル程度問題デアリマスルカラシテ、一刀兩斷ニ之ガ可否ヲ明ニスルト云フコトハ、極メテ困難ナル問題デゴザイマスル、併ナガラ此輸入米ニ對シテ自由ニ之ヲ放任スルト云フナラバ格別、荷モ産業保護、收入主義トノ二ツヲ兼ネテ關稅ヲ課スル以上ハ、他ノ物品ト權衡ヲ取ッテ宜シク適當ノ程度ヲ定メナクレバナリマセス、其適當ノ程度ヲ測定スルハ何ニ依ッテ測定スルカト申シマス、我邦ノ生産費ト、輸出スル所ノ各國ノ生産費ト、ソレニ日本マデ持ッテ來ル運賃、竝ニ諸掛リ等ヲ加ヘマシテ、其比較ヲシ、而シテ其差額ヲ以テ標準トスルノガ一番適當デアラウト私ハ思フ、然ラバ其生産費ト云フモノハ何ニ依ッテ定メルカト申シマス、是ハ今日十分ナル統計モアリマセスガ、併ナガラ先年、農商務省カラシテ特ニ是等ノコトヲ調査スルガ爲ニ印度地方ニ派出サレタル安藤技師ノ調査ニ依ッテ其基礎ヲ定メルヨリ外ナカラウト思ヒマス、其安藤技師ノ調査ニ依ッテ印度地方ノ生産費ノ調査ヲシテ見マス、斯様ナモノニナルノデアリマス、先ヅ日本米ノ生産費ヲ調べテ見マス、是モ農商務省ノ調べヲ基ト致シタノデアリマス、一石ニ付イテ十一圓二十錢ト云フモノニナルノデアアル、即チ百斤ニ付イテ四圓四十八錢ト云フモノデゴザイマス、是ハ資本金ノ利子ト云フモノハ農商務省ノ調べノ中カラ控除シテ省イタノデゴザイマス、デハハ農商務省ニ於テ一段ニ對スル肥料、租稅、修繕費、農具、種子、勞力、斯ウ云フモノヲ農商務省ノ調べニ依ッテ割當テ、見マス、即チ一石ヲ收穫スルニ付イテノ生産費ガ十一圓二十錢、百

斤ニ付イテハ四圓四十八錢トナルノデアリマス、ソレカラ英領印度、暹羅、佛領印度、此三箇所ノ生産費ヲ平均シテ見マス、百斤ニ付イテ一圓六十八錢トナリマス、是モ矢張り資本ノ利子ヲ除イタノデアリマス、是モ前申シタ如ク一段歩ニ對スル平年ノ收穫、ソレカラ一段歩ニ對スル種子、農具、租稅、水利費、勞力、斯ウ云フモノヲ計算シテ斯クナルノデアリマス、是ハ印度地方ハ御承知ノ通り氣候モ餘ホド熱帶ノ地デアリマスルナリ、又肥料モ施サズ租稅モ極メテ輕微ナルモノデアリマスカラ、斯ク生産費ガ廉ク付クノデアリマス、其生産費ノ精米……是ハ玄米デ斯ウ當ルノデアリマス、之ヲ精米ニシマスルニ、百斤ノ精米ヲ得マスルニハ粗百六十斤ヲ以テ白米百斤ニ換ヘルト云フコトデゴザイマス、即チ粗百斤ニ付イテ十六錢二厘精米ニスル費用ガカ、ルサウデゴザイマス、故ニ白米百斤ニ付イテハ二十錢精米費ガカ、リマス、ソレカラ運賃諸掛リガ是モ農商務省ノ調べニ依ルト百斤ニ付イテ六十八錢カ、リマス、此三ツヲ合セテ見マスレバ、百斤ニ付イテ二圓五十六錢ト云フモノニナリマス、日本ノ米ノ生産費ハ四圓四十八錢デアアル、印度地方ノ輸出國ノ生産費ハ百斤ニ付キ二圓五十六錢デアリマス、サウスルト百斤ノ差金ハ一圓九十二錢トナルノデアリマス、併ナガラ印度地方ノ米ノ品位ト日本ノ米ノ品位トハ餘ホド違ヒマシテ、是マデノ日本米ノ相場ト外國米ノ相場トノ差金ヲ六箇年間平均シタモノモ、是モ農商務省カラ材料ヲ得マシタノデアリマスガ、ソレニ依ッテ調べテ見マス、日本米ト外國米トノ價額ノ差ト云フモノガ、平均一石ニ付キ二圓四錢ト云フモノニナリマス、即チ百斤ニスレバ八十二錢ト云フモノガ品位ノ價額ノ相違ト云フモノデ控除セネバナラス、之ヲ一圓九十二錢ノ中カラ控除シマス、真正ノ差金ト云フモノガ一圓十錢トナルノデゴザイマス、ソレデ此一圓十錢ト云フ此標準ニ依リマシテ關稅ヲ課稅ヲシマシタナラバ、我邦ノ農民ハ安シテ其業ニ從事シテ益、其生産額ヲ増シ、我邦ノ食料ノ獨立ト云フコトノ出來ルヤウニナラウト私ハ信ズルノデゴザイマス、而シテ若シ此標準ニ依ッテ課稅シタナラバ他ノ産業ニ害アリヤ否ヤト云フコトニ付イテハ是モ研究シテ見マシタガ、私ハ決シテ害ナキモノト認メルノデゴザイマス、米ガ高イカラシテ工業ガ衰頹スル、米ガ廉イカラシテ工業ガ進歩スルト云フコト決シテナイノデアリマス、ソレハ既往ノ統計ニ徴シテモ分ルデアリマス、既往十何年ノ統計ニ依ッテ見マス、明治二十二年ニハ米一石ノ相場ガ九圓八十四錢デアリマシタ、サウシテ日本カラ輸出ス

ル其金額ト云フモノハ二億一千四百萬圓デアアル、四十年ニ至リマシテ段々ト年々米ノ相場ガ高クナリマシテ、一石ノ相場ガ十六圓ト云フコトニナリマシタ、輸出額ハ益々進ンデ四億三千二百萬圓、殆ト倍以上ニナツテ居ルノデアリマス、米相場ハ倍ニハナツテ居リマセヌガ、輸出額ハ倍以上ニナツテ居ルノデゴザイマス、是ハ唯米ガ高イカラシテ斯ク輸出ガ増シタトハ私ハ申サヌノデアアル、併ナガラ米ガ高クテモ輸出ハ進ムベキトキハ段々進ムベキモノデアッテ、米ガ高イカラシテ工業ガ衰頹スルト云フ議論ニハ決シテナルマイト私ハ信ズル、工業ノ發達ト云フコトハ文明ト共ニ機械ノ力ヲ借りテ進ムモノデアリマシテ、決シテ物價ガ高イカラ發達ヲシナイ、物價ガ廉イカラ發達ヲスルト云フモノデナイト云フコトハ、既往ノ統計ニ徴シテモ明瞭ナルコト、信ズルノデアリマス、又彼ノ鹽ノ專賣ハ如何デゴザイマス、是ハ國民一日モ缺クベカラザルノ食料デアリマシテ、一升ニ付イテ三錢以上ノ稅ヲ專賣トシテ課シテ居ルノデハゴザイマセヌカ、世間之ヲ稱シテ惡稅ト唱ヘルニモ拘ラズ、政府ハ此度鹽田整理案ヲ出シテ永久的ノ方針ヲ示シ、當院モ之ニ贊成ヲシタデハゴザイマセヌカ、又彼ノ砂糖ノ稅ハ如何デゴザイマス、是ハ幾分カ奢侈ニハ屬スルモノト云ヒナガラ日用品デアリマスルガ、是ハ六割ノ關稅ヲ課シテ保護シテ發達セシメヤウト云フ政府ノ方針デアリマセヌカ、而シテ此米ニ僅ニ百斤ニ一圓、即チ二割半ホドノ稅ヲ課シテ是デ輕シトハ寧ロ言ヘマスルガ決シテ重キ稅ト云フコトハ出來マイト私ハ信ズルモノデアリマス、而シテ日本ニハ農業ヲ發達セシメルノ餘地ナキカ、又食料ヲ獨立セシメルノ見込ナキヤ否ヤト云フコトニ付キマシテモ、是亦確ニ餘地ガアルノデゴザイマス、農商務省ノ政府委員ノ答辯ニ依リマス、現在我邦ノ米產額ハ統計ニハ一段歩一石六斗グラキニナツテ居ルガ、事實ハ一石七斗グラキデアラカラ、先ヅ平年作四千八百萬石ハアル、ソレニマダ追々ト改良ヲ施セバ試驗上デハ二石二斗以上ニモナル見込ガアル、ケレドモ一般ニサウハ行クマイカラシテ、マダ此上三斗ハ増スコトガ出來ル、既往ノ田地ニ付イテハ尙ホ其他土地整理、陸田ノ改良、ソレカラ畑、田ナリ新規ノ開墾、是等ヲ加ヘテ見ルガサイ、一々其丁數ハ申シマセヌガ是等ヲ加ヘルガサイ、コ、二三十年ノ後ニハ我邦ノ米ノ收穫ト云フモノハ平年作デ六千五百萬石ニ滿チルコトハ決シテ難キコトデハナイト云フコトノ説明デアリマス、日本ノ人口モ亦隨ッテ殖エ、コ、三十年ノ後ニハ日本ノ人口モ六千六百萬万人ニハナルガ、一人前是マデノ平均デ見ルト九斗七升ニ

ナルカラシテ決シテ食料ニ不足ハ……人口ガ増シテモ食料ニ不足ヲ告ゲルヤ
ウナ氣遣ヒハ無カラウト云フコトデアリマス、又農商務大臣モ本年貴族院
ノ委員會ニ於テ答ヘラレタ所ニ依リマスルガサ、將來二三十年間ニ於テ本
邦ノ需要米ハ本邦ノ產米ヲ以テ供給スルコトガ出來ルト云フコトヲ申述ベテ
居ラル、コトデアリマス、併ナガラ是ハ保護政策ヲ施スト施サストニ依ッテ
非常ニ分ル、所デアリマシテ、若シ之ニ適當ノ保護ヲ以テ關稅ヲ課シテ獎勵
ヲシタナラバ、此農商務省ノ調ベ以上、餘ホド、ヨリ以上ノ増加ハ間違ヒ無
カラウト考ヘマスルガ、併ナガラ今日ノ狀態ニ於テ推移ッタナラバ、又非常
ニ退步シテ日本ノ食料ト云フモノハ今日ノ輸入米ノ平均二百五十万石ドコロ
デハナイ、六百万石モ七百万石モ平年ニ輸入セネバナラス狀態ニ立至ルデア
ラウト私ハ信ズルノデアリマス、近來地方ノ情況ヲ見マスルニ、農業ヲ廢メ
テ勞働者トナル、其勞働者トナッテモ仕事ガ少ナカラ甚ダ困ル、併ナガラ農
業ヲシテ居ルヨリハ、マダ増シデアル、斯ウ云フヤウナ有様デアリマシテ、
追々ト農業ノ衰頹ト云フモノハ私ドモ事實目撃シテ居ルノデゴザリマス、
此儘デ經過シタナラバ單リ農業ノ衰頹ノミナラズ商工業ノ衰頹ト云フモ、是
モ寒心スベキ場合ニ立至ラウカト私ハ推測スルノデアリマス、私ハ決シテ禁
止稅ヲ課シテ米ノ相場ヲ釣上ゲヤウト云フ趣意デハ決シテナイノデアリマ
ス、米價ノ高低ニ拘ラズ此生產費ニ相當スルダケノ差額ダケハ關稅ヲ課ケテ
安心シテ農業ニ從事サセルヤウニシタイト云フガ私ノ希望デアリマス、米價
ノ高低ハ固ヨリ年ノ豐凶ニ因ルト云フコトハ無論デゴザイマス、其年ノ豐凶
ハ米價ノ高低ヲ左右スル大材料デアルト云フコトハ申スマデモナイコトデア
リマス、米ノ高イトキハ輸入ノ其額ガ澤山アリ、米ノ廉イトキハ輸入額ハ少
ナイト云フコトモ是モ亦無論ノコトデアリマス、然ルニ政府委員ハ此統計ヲ
轉用セラレマシテ、輸入米ト云フモノハ日本ノ敵デハナイ、若シ是ガ日本ノ
敵デアラナラバ、輸入ノ澤山アッタ年ニハ米ガ廉ウナケレバナラス、輸入ノ
少ナカッタトキニハ米ガ高ウナラナケレバナラスガ、統計上カラ見ルト却ッ
テ其反對デアッテ、輸入ノ多イトキニハ却ッテ米ガ高イ、輸入ガ少ナイトキ
ニハ却ッテ米ガ廉イ、之ヲ輸入米ハ米價ニ關係ノ無イト云フ證據ニシテ説明
ヲシテ居ラレマスルガ、是ハ實ニ顛倒シテ御説明ト私ハ考ヘルノデアリマシ
テ、サウデハナイ、米ガ高イカラ輸入ガ多ウナル、米ガ廉イカラ輸入ガ少ナ
イノデアリマス、決シテ輸入米ガ澤山アッテモ米ガ廉ウナラヌト云フヤウナ

不審ヲ打ツコトハ一點モ無イノデ、米ガ高イカラ輸入ガ多イノデアリマシ
テ、米ガ廉ケレバ輸入ガ少ナイ、之ヲ顛倒シテ解釋シテ説明セラレタト云フ
モノハ、是ハ甚ダ私ハ探ルニ足ラヌ議論ト考ヘマス、併シ此内地ノ米價ノ
高低、若クハ年ノ豐凶ニ拘ラズ、輸入稅ノ金額ダケハ、ドウシテモ米ガ廉ウ
テモ高ウテモ、年ガ豐年デアラウガ凶年デアラウガ輸入稅ヲ課シタ其金額ダ
ケハ外國米ニモ内地米ニモ關係ヲスルト云フコトハ、是ハ確ニ判斷ノ出來ル
コトデアラウト私ハ思フ、又一說ニハ輸入米ガ下等ノ米デアラカラ、品位ノ
惡ルイ米デアラカラシテ、是ハ需要者ガ違フカラシテ、一般ノ日本米ニハ決
シテ關係ヲセヌト云フ議論モ有ッタヤウデゴザイマスルガ、是モ亦大變間違
ッタ話デアリマス、之ヲ一口ニ評シマシタナラバ、麥ガ高ケレバ米ガ高ク、
鰯ガ高ケレバ鰯ガ高イト同一一般デゴザイマシテ、此一言ヲ以テ私ハ論破スル
ニ足ルト考ヘマス、關稅ノコト、云フモノハ各、其國ノ事情ニ依リマスモノ
デ、強チ外國ノ例ヲ引用スル譯ニモ參リマセヌケレドモ、先ヅ英國ハ是ハ悉
ク食料ヲ外國ノ輸入ニ仰グ國デアリマスカラシテ、是ハ別段ト致シマシタ所
デ、此歐米各國デノ即チ日用缺クベカラザルモノハ麵包ノ原料デゴザイマ
ス、即チ小麥、此關稅ハ如何ニナッテ居ルカト云フコトヲ調ベテ見マスル
ト、佛蘭西ハ百斤ニ付イテ日本ニ直シテ一圓六十二錢五厘トナッテ居リマ
ス、獨逸ハ百斤二圓十五錢デアリマスルガ、協定ニ依ッテ一圓五十六錢二厘
トナッテ居ル、西班牙ハ一圓八十五錢八厘、伊太利ハ一圓七十四錢一厘、米
國ハ一圓十一錢、斯ウナッテ居リマス、其中佛蘭西ト獨逸ハ農業ノ經濟ニ於
キマシテハ、能ク我國ト相似テ居ルノデアリマシテ、即チ佛蘭西ハ食料ヲ一
割外國ヨリ仰グ國デアリマス、獨逸ハ一割五分ヲ輸入ニ仰グ國デアリマス、
日本ハ僅ニ一割ニ充タナイ五分ノ輸入ヲ仰グ國デゴザイマス、一割以上ノ輸
入ヲ仰グ國ニ於キマシテモ矢張り百斤一圓六十何錢、獨逸ハ一圓五十六錢ト
云フヤウナ稅ヲ課シテ居ルノデアリマス、デ獨逸ハ四十年ホド前マデハ小
麥ハ無稅デアリマシタ、トコロガ其後、初メ一噸ニ付イテ三十「マーク」ノ課
稅ヲシテ今日デハソレヲ七十五「マーク」、協定稅率デ五十五「マーク」モ課シ
テ居ルノデアリマス、ソレガ即チ日本ノ百斤ニ直シマシテ一圓五十六錢トナ
ルノデアリマス、ソレクラキノ多額ノ關稅ヲ必要品ニ獨逸ハ課シテ居リナガ
ラ、其農業ハドウカト申シマス、此保護ニ依ッテ非常ニ進歩シテ居ル、ソ
レデ他ノ工業ハ或ハ衰頹シテ居ルカト云ヘバ、御承知ノ通り非常ニ商工業ハ

發達シテ居ルデハゴザイマセスカ、ソレ故ニ日本ノ百斤ニ付イテ一圓ヲ課スルト云フハ、寧ろ廉イト云ウテモ宜イガ、決シテ重イトハ申サレマセス、以上申述べマシタル所ニ依リマシテ、反對論者ノ御説モ必要ノ食料品ニ百斤一圓ヲ課スルハ重キニ失スルト云フノ御説、ソレカラ豊年ニハ關稅ノ影響ハ無イ、凶年ニハ惡影響ヲ來タスト云フ御説、外國米ハ需要者ガ違フカラシテ、日本米ノ價格ニ影響ハ無イト云フ御説、關稅ヲ一圓ニスレバ物價ガ騰貴スル、從ッテ輸出品ヲ減ズルト云フノ御説、此四ツノ反對説ニ對シテハ以上述べマシタル所ニ依ッテ之ヲ御了解クダサルコト、信ジマス、殘ル反對説ハ又斯ウ云フ説モアル、韓國ノ產米ニ對シテ一圓ノ輸入稅ヲ課シテハ韓國ノ開發ヲ害スルト云フノ説、ソレカラ穀物ノ關稅ヲ引上ゲテモ少數ノ地主ヲ利シテ却ッテ小農ヲ害スルト云フノ説、此二ツガ殘ッテ居リマス、併シ此韓國ノ關稅ノコトニ對シマシテハ、昨年衆議院ノ委員會ニ於テ非常ニ統監府ノ政府委員ハ反對ヲセラレマシタコトデアリマシタガ、今年ハ外務大臣ノ説明ニ依リマスレバ、此度條約改正ニ於テハ日本ガ韓國ニ對スル關稅上ノコトハ特殊ノ例ヲ設ケ、之ヲ一般ノ外國ニハ均霑セシメザルヤウニスルト云フノ御辯明デアリマスカラシテ、最早韓國ノコトヲ心配スル必要ハ無クナッタノデアリマス、縱シヤ斯克出來マセヌデモ韓國ノ財政ハ我國ガ助ケテ居ルノデアリマスカラ、彼ノ國ノ輸出ヲ廢シテモ宜イ、一步進ンデ韓國ノ輸出ニ對シ獎勵金ヲ與ヘテモ、一方デ取ッテ一方デ與ヘルノデアリマスカラ、決シテムヅカシイコトハ無イノデアリマスカラシテ、此事ハ論外トナッテ仕舞ッタノデアリマス、唯殘ル所ハ此關稅ヲ引上ゲテモ、即チ政府ノ稅ヨリ以上ニ上ゲテ此保護稅ヲ課ケタ所ガ、少數地主ガ利益ヲシテ、多數ノ小農者ニハ決シテ害ガ有ッテモ益ハ無イト云フ、此説ニ對シテハ一言辯明イタシ置カネバナリマセヌ、日本ノ農家ハ御承知ノ通り五百四十一万六千戸ゴザイマシテ、此人口ハ三千万人デゴザイマス、是ハ農業ニ從事セザル地主ヲ除イタ戸數デゴザイマス、全ク農業ニ從事スル者ノミデ、即チ人口ハ三千万人デアリマス、此中、地主デ農業ニ從事シテ居ル者ガドレクラキアルカト申シマス、四百九十万戸デアリマシテ、此人口ハ二千七百三十万人デゴザイマス、全クノ小作農ト云フ者ハ五十万戸デ、僅ニ二百七十七万人コソ無イノデゴザイマス、小作人ハ凡ソ一割コソアリマセヌ、デ日本ノ大地主ト申シマシタル所ガ、僅ニ四五人コソ日本中デゴザイマセヌガ、其大地主ト申シマシテモ決シテ外國ノ大地主ト

ハ違ヒマシテ、誠ニ之ヲ比較シテ見タラ微々タル大地主トコソ申サレマセヌ、ソレモ僅ニ四五人コソゴザイマセヌ、地方ニ於キマシテハ地價一萬圓以上ヲ持ッテ居ル者ヲ大地主ト稱ヘマスガ、此大地主ト稱ヘマスル者ノ事實ノ純益ハドレクラキアルカト申シマス、今日増俸ニナリマスル以前ノ奏任官三等グラキノ純收入コソ無イノデアリマス、ソレニモ及バナイクラキデアリマスカラ、誠ニ微々タル者デアリマス、ソレデモマダ地價一萬圓モ持ッテ居リマスル者デ見マスレバ、他ノ財產ヲ持ッテ居ルナリシテ、ドウカ斯ウカ生活ハシテ行キマスガ、一番困難ナル者ハ彼ノ小農及小作人デゴザイマス、此小農小作人デ見マスレバ肥料代ヲ拂フニモ米、木綿著物一枚買フニモ米、子供ノ小學讀本一冊買フニモ別ニ貯蓄等ハゴザイマセヌ、米ニ依ッテ拂フノデアリマス、困ルノハ大農ニアラズシテ、小農小作人デアルト云フコトヲ御承知クダサレタイノデゴザイマス、要スルニ本案ニ對シ政府案ト衆議院ノ修正トハ其程度ノ見所ガ三十六錢違フダケデアリマス、此程度ノ適否ヲ測定シマスルニハ前刻申述べマシタル通り我國ノ生産費ト輸出國ノ生産費ニ運賃諸掛リヲ加ヘタルモノヲ比較シテ、之ニ依ッテ算定シタルモノガ即チ相當ノ標準デアラウト思フ、衆議院デ一圓十錢ノ差額ノ中カラシテ十錢ヲ引下ゲテ一圓トシテ、謂ハユル今日ノ議題トナッテ居リマスハ誠ニ適當ナル衆議院ノ修正デアルト信ジテ私ハ之ヲ贊成スル次第デアリマス、諸君ニ於キマシテモ前來、私ガ述べマシタコトガ理由アリト御認メニナリマシタナラバ、政府ノ反對ニハ關係ナク、ドウカ此衆議院ノ修正ニ御贊成アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ申上ゲマスガ、全部ヲ問題ニ供シマシタガ、唯今木村君ノ御意見モゴザイマスカラ、此採決ヲ致シマスノハ一頁ヨリ十頁、即チ第一類ノ終リマデニ付イテ採決ヲ致シマスカラ左様御承知ヲ請ヒマス、……唯今議長ノ申述べマシタ第一頁ヨリ十頁マデノ所ハ特別委員長ノ報告通り御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ハ第二類ニ付イテ採決ヲ致シマス、第二類、特別委員長ノ報告ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス、殘リノ全部ニ付イテ採決イタ

シマス、總テ特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○侯爵黒田長成君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○男爵武井守正君 賛成

○田中芳男君 賛成

○千坂高雅君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開クニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通り
デ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議長ハ據ロナイ差支ガゴザイマスカラ是ヨリ退席
イタシマシテ副議長ニ此席ヲ譲リマス

「副議長侯爵黒田長成君議長席ニ著ク」

○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第四、耕地整理法中改正法律案、政府
提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

耕地整理法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員長

男爵 日賀田種太郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

「男爵日賀田種太郎君演壇ニ登ル」

○男爵日賀田種太郎君 耕地整理法中改正案ノ委員會ノ經過審査ノ結果ヲ御
報告イタシマス、昨十七日委員長副委員長ノ互選ヲ致シマシテ、引續イテ委
員會ヲ開キマシテ、農商務省及大藏省ノ政府委員ノ説明ヲ聽キタル後、審査

シタ次第デアリマス、此改正案ハ今般地租條例ノ改正ニ伴ッテ要セラル、コト
ガ主トナッタ次第デゴザイマス、其逐條ニ付イテ申シマスルト云フト、地租條
例ハ此度其第十條ハ前キニ一二ト分レテ居リマシタモノガ、此度ハ單一ニ一
條ニナリマシタガ故ニ、從ッテ耕地整理法中ノ第十二條中ニ於キマシテ斯ノ如
ク修正ヲ要スル次第デアリマス、其他此十三條ニ於ケル改正ハ是ハ少シク
新ラシイ問題デアリマス、是マデハ地租ノ定率ガ總テ二箇半デゴザイマシ
タカラ斯ノ如キ問題ヲ必要トセザルコトデゴザイマシタケレドモ、此度地目
ニ依リマシテ地租ノ課率ガ異ナル次第ニナリマシタ故ニ此條ヲ要スルノデゴ
ザイマス、第十三條ノ第一項ノ次ニ此度加ハリマスル第二項中ニ於キマシ
テハ、耕地整理ヲ行フ地租ノ稅率ガ同一ナラザル土地ガアッタトキニハ現地
價ニ依ッテ算出シタル地租ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦スルト斯ウゴザイマ
ス、此地租ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦スルト云フコトニ付キマシテ、委員
會ニ於テ政府委員ノ説明スル所ハ大凡斯ノ如クデアリマシタガ、是ハ最モ關
係ノ多イコトデゴザイマスルカラ一應説明ヲ申上ゲテ置キマス、例ヘバ茲
ニ畑、宅地若クハ山林ノ三箇所ノ土地ガゴザイマシテ、各、百圓ノ地價デ
アッテ、三箇所合セテ三百圓ノ地價ノモノガゴザイマシタトキ、其畑ノ地租
ハ四圓七十錢デゴザイマス、宅地ノ地租ハ二圓五十錢デゴザイマス、山
林ノ地租ハ五圓五十錢デゴザイマス、之ヲ合計シマスレバ十二圓七十錢ニナ
ルノデゴザイマス、ソレデ此度ノ改正案ノ每筆相當ニ配賦スルト云フノハ唯
今ノ十二圓七十錢ヲ三分イタシマシテ每筆ニ配賦シタトキニハ丁度四圓二十
五錢ニ相當スルノデゴザイマス、此四圓二十五錢ナルモノヲ宅地ノ地租ノ
二圓五十錢デ除シマスルトキニハ宅地ニ相當スル新ラシイ地價ヲ得ルノデア
ル、新ラシイ地價ガ百六十六圓ニナルノデス、又畑地ノ場合ニ於キマシテハ
之ヲ四圓二十五錢ヲ四圓七十錢ニテ除シマスル際ニハ九十圓ノ新ラシイ地價
ヲ得ルノデゴザイマス、又山林ノ場合ニ於キマシテハ四圓二十五錢ヲ五圓五
十錢ニテ除シマスルガ故ニ七十六圓ヲ得ルノデス、ソレデアリマスルカラ毎
筆ニ相當スルトキニハ丁度新ラシイ地價ハ百六十六圓ト九十圓ト七十六圓、
從前ニ於テハ三百圓ノモノガ此度ハ三百三十二圓ホドニナルノデゴザイマ
ス、是ガ極平易ナル一例デゴザイマシテ、其他地區ノ同一ナラザルモノ若ク
ハ地價ノ大ニ差異アルモノハ斯ノ如ク單一ナルヤウニハ參ラス、此場合ニ於
キマシテハ耕地整理ニ關スル組合等ノ協議ヲ以テ實地ニ相當スル正確ナル結

果ヲ得ルヤウニ毎筆ニ相當ニ配賦スル、斯ウ云フ説明デゴザイマシタ、是ガ此度ハ地租ノ稅率ガ異ナル場合ニ至リマシタ故ニ必要トセラル、新ラシイ改正ノ條項デアリマス、其他十四條ノ改正ノ如キハ、開墾シタル土地ノ場合ニ於テ二十年トアリシヲ六年ニ改メ、若クハ六年トアッタノヲ削除スルト云フガ如キ政府案デゴザイマシタル所ガ、是ハ衆議院ニ於テ削除トナッタノデゴザイマス、其他地租ノ變換ノ場合ニ於テ五年以内ニ開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ、開墾地ニ關スル規定ヲ適用セズト云フノ一項ハ脫稅ヲ防グガ爲ニ政府ハ提出シタ一項デゴザイマスルガ、是モ餘リ些細ナコトデアッテ必要ガ無イト云フノデ衆議院ニ於テ削除ニナッタコトデゴザイマス、此點ニ付キマシテハ政府ニ於テモ別ニ異議ヲ唱ヘナカッタ次第デアリマス、其他此條文ニ於テノ修正ハ此度地租條例ニ於キマシテ地目變換等ノ場合ニ五箇年間地價ヲ据置クト云フコトヲ削除イタシマシタ結果ニ外ナラヌコトデゴザイマス、右ノ如ク審查ヲ致シマシテ本案ハ衆議院送付ノ如ク可決シタ次第デゴザイマス、此段ヲ御報告イタシマス、本案ハ唯今申上ゲマスル如ク地租條例ニ伴ッテ耕地整理法中ニ必要セラル、改正案デアリマシテ、至ッテ簡明ナコトデゴザイマスルカラ、願ハクハ讀會ノ省略アラムコトヲ希望シマス

○男爵金子有卿君 讀會省略ニ賛成

○男爵野田裕通君 賛成ヲ致シマス

○男爵高木兼寛君 賛成シマス

○田中芳男君 讀會省略賛成

○下條正雄君 賛成

○男爵中川興長君 讀會省略賛成

○男爵田健治郎君 賛成

○子爵堤功長君 賛成

○淺田德則君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵黑田長成君) 讀會省略ノ動議ニ定規ノ賛成者ガゴザイマシタ、讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略サレマシタ

タ

○副議長(侯爵黑田長成君) 本案ニ付イテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黑田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 次ニ議事日程第五、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第六、罹災救助基金法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第七、東京市區改正條例中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員副委員長

男爵 長松 篤葉

貴族院議長公爵德川家達殿

罹災救助基金法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員副委員長

男爵 長松 篤葉

貴族院議長公爵德川家達殿

東京市區改正條例中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員副委員長

男爵 長松 篤葉

貴族院議長公爵德川家達殿

○男爵長松篤葉君 此案ニ對シマスル委員會ノ報告ハ、營業稅法中改正法律

案ニ關聯イタシマスルカラ、右ノ議了スルマデ延期ヲ願ヒタウゴザイマス
○副議長(侯爵黒田長成君) 唯今、長松男爵ノ申サレマシタル延期ニ付イテハ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第八、皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告

皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員長

公爵 二條基弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔公爵二條基弘君演壇ニ登ル〕

○公爵二條基弘君 唯今御報告ニナリマシタ法案ニ付キマシテノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道イタシマス、此法案ノ大體ノ趣旨ニ付キマシテハ、第一讀會ノ際ニ主務大臣ヨリ委シク御説明ニナリマシタカラシテ、今更之ヲ申スコトハ必要ナイト思ヒマスカラ申シマセヌ、詰リ此法案ハ皇室親族令、竝ニ皇族身位令ノ出來マシタ爲ニ、ソレニ伴ッテ今回皇族ヨリ臣籍ニ入ル者、又ハ臣籍ヨリ皇族ニ入ル者ノコトニ付イテ、戸籍ノ取扱ノ事柄ニ關シテ必要ヲ感ジテ此法案ガ出來タ譯デアリマス、委員會ニ於キマシテ能ク調査ヲ致シマシタ所、法案ノ趣旨ハ最モ今日必要ト認メタ譯デアリマス、今其大體ヲ申シマスレバ、此第一條ニアリマスル通りニ皇族ヨリシテ臣下ノ列ニ……詰リ養子トナッテ行ク場合、又ハ臣下ヨリ結婚ノ爲ニ皇族籍ニ入ラレタ其場合ニ於テ、後生ジタル所ノ即チ離縁又ハ離婚ト云フコトノ場合ガ起ッタトキニハ、唯今マデノ所デハ少シモソレニ對シテ何等ノ規定モ無イノデアリマス、皇族ハ即チ皇室典範、皇室典範増補皇室令、唯今申シマシタ皇室親族令、皇族身位令ナドガ設ケテアリマスカラ何モ差支アリマセヌガ、臣籍ニナラレタ人

、又ハ臣籍ヨリ皇族ニナラレタ人ノ離縁離婚ニ對シテハ其人等ハ一般法律ノ支配ヲ受ケネバナラヌコトニナリマス、ソレ故ニ此法律ガ其場合ヲ第一條ニ示シテアルノデアリマス、第二條モ即チ皇族同士デ結婚ガアッテ其後何カノ事情デ離縁ニデモナルト云フヤウナ場合ガアッタトキニ、即チ其者ハ直チニ直系尊屬ノ家ニ入ル、又臣家ヨリ皇族ノ籍ノ方ニ入ッテ離縁ニナッタトキニハ即チ實家ニ入ルト云フコトガ示シテアルノデアリマス、此第一條第二條ハ詰リ離縁又ハ離婚ノトキニナッテ其人ノ行先ガ今デハ無イカラシテ、茲デ之ヲ定メタ譯デアリマス、其他ノ箇條ハ總テ戸籍法ノ手續ノ事柄ニ關シタコトバカリガ記載シテアリマス、ソレデゴザリマスカラシテ委員會ニ於キマシテハ此法案ハ最モ今日ニ必要ナモノト認メマシタノデ、總テ原案通りニ可決イタシタノデアリマス、此段ヲ御報告イタシマス、終リニ臨ミマシテ本案モ唯今申上ゲタ如ク意味ニ於キマシテ極簡明ナルモノデアリマスルカラ、讀會省略ヲ以テ直チニ可決通過アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵高野宗順君 讀會省略ニ賛成

○田中芳男君 賛成

○馬屋原彰君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○男爵南光利君 賛成

○千坂高雅君 賛成

○下條正雄君 賛成

○男爵田健治郎君 賛成

○男爵武井守正君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 成規ノ賛成者ガゴザイマシタ、讀會省略ニ同意

ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略セラレマシタ

○副議長(侯爵黒田長成君) 本案全部御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 次ニ第九、北海道士功組合法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、高木男爵

北海道士功組合法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員長

男爵 高木 兼寛

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔男爵高木兼寛君演壇ニ登ル〕

○男爵高木兼寛君 去ル十四日御付託ニナリマシタ北海道士功組合法中改正法律案委員會ノ經過ヲ報道申上ゲマス、本委員會ハ去ル十六日ニ第一回ヲ開キ、委員長副委員長ノ互選ヲ終リ、政府委員ノ出席ヲ求メ、引續キ委員會ヲ開キマシテゴザイマス、先ヅ初メテ政府委員ヨリ本案提出ノ理由ヲ説明サレ、續イテ綿密ナル質問及詳細ナル答辯ガゴザイマシタケレドモ、同日ハ決議スルニ至ラズ、翌十七日ニ更ニ引續キ會議ヲ開キ、重ネテ多數ノ質問、之ニ相當ノ説明ガゴザイマシテ、遂ニ全會一致ヲ以テ本案ヲ可決イタシマシタ、委員會ノ經過ノ大體ヲ申上ゲマスレバ左ノ通りデゴザイマス、第一ニ現行ノ法律ハ三十五年ニ制定サレタモノデアアル、此法律ニ依ッテ北海道ニ成立ッテ居ル所ノ組合ハドノクラキアルモノカト云フ間ガ出マシタ、之ニ對シテ二十組合出來タト云フ答辯デアリマス、其二十ノ中、七組合ダケハ略々成功イタシテ居ル、殘リノ組合ハ成功ノ半バニ居ルモノデアアル、種々デアアル、成立ッテモ種々資金ノ調達等出來能ハザル所カラ大ニ難澁イタシテ居ルモノデアアル、又著々歩ヲ進メテ居ルモノデアアルト申サレコトデアリマス、此難澁ヲ致シテ居ルモノ等ノアル點ガ即チ此改正案ノ出ル理由デアリマス、御覽ノ通りニ此改正案ハ數箇條デゴザイマス、此第一條ハ現行法律ト大差デゴザイマセヌ、文章ヲ書キ改メタニ過ギヌト申シテモ宜イクラキノモノデ、第三條、是ガ即チ此改正ノ骨子デアリマス、現行法律ニ依リマシテハ組合内ニ於ケル土地所有者ガ組合ニ加入スルモ、セザルモ隨意デアアルト云フコトニナツテ居リマス、之ガ爲ニ一般組合員自由ノ行動ヲ取ルコトガ出來ルヤウナ次第

デアリマスカラ、資金ノ調達等ニモ大ニ影響ヲ致シテ居ルデアリマス、ソレ故ニ組合ノ基礎ヲ鞏固ニスル必要ガ茲ニ起ッタ爲ニ本案ノ如キ組合區域内ニ土地ヲ所有スル者ハ悉ク之ニ加入スルコト、ナルノデアリマス、之ヲ前者ニ比シマスレバ大ナル違ヒガアルデアリマス、ケレドモ此改正案ノ如クニナリマスレバ、組合ノ基礎ハ實ニ鞏固ニナルト云フ所カラ、本案ヲ即チ斯ク改正サレムトノ希望デアリマス、現行法律ハ但書ノ部類ガゴザイマセヌケレドモ、今日實際ニ臨ンデ之ヲ加ヘル必要ガアッタ「但シ御料地又ハ國有地ニ付テハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ヲ以テ組合員トス」ト云フコトヲ加ヘテ尙ハ又組合ノ事業實施上、便宜ヲ與フルト云フコトニナツテ居ルデアリマス、斯ノ如クナリマシテ事業ヲ大成スルマデノ間ニ、或ハ組合ヲ刷新シ、又ハ新ニ這入ル者モアルダラウト云フコトニ付イテ、詳細ナル質問モアリ、又之ニ從ッテ答辯モ十分ゴザイマシタ、其事ヲ委シク申上ゲマスレバ長キニ失シテ却ッテ御迷惑ニナリ、且又要モ無カラウト思ヒマスカラ、申上ゲマセヌ、第五條ハ土地ヲ一旦區域ヲ定メテ、是ダケガ組合ノ事業區域内トナツテ居ルト云フ曉ニ、尙ホ其近鄰ニ於ケル所ノ土地ヲ此組合内ニ編入セムトスル場合ニ於キマシテハ、初メ創立ノ時ト違ヒマシテ、區域ニ加ヘムトスル土地所有者ノ同意ヲ求ムルコトヲ要スルト云フコトニナツテ居リマス、ソレカラ第六條デアリマス、此六條ニ於テ現行法ト異ナリマスル所ハ、組合費滯納處分ヲ爲ストキニ至リマシテ、組合ノ徵收金ハ區町村ノ徵收金ニ先ダツテ先取特權ヲ有スルト云フコトニナル所ガ違フ所デアリマス、之ヲ要スルニ第三條デ組合員ヲ確實ニシ、第六條ニ於テ組合員ノ組合費徵收ヲ確實ニシタルト云フ點デアリマス、現在ノ組合ノ狀態竝ニ將來ノ事等ヲ能ク審査イタシマシタ結果ハ、今日以上ノ法ハ設クル餘地ガ無い、先ヅ以テ今日ノ所、是ガ實際ニ適應スルモノデアアルト云フ所ニ歸著イタシマシタ末、遂ニ全會一致ヲ以テ可決イタシタ次第デアリマス、右御報告申上ゲマス

○石井省一郎君 チョット特別委員長ニ質問ヲ致シマス、私モ原案ヲ至極贊成ヲ致シマスル者デゴザイマスガ、第三條ノ但書ニ「御料地又ハ國有地ニ付テハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ヲ以テ組合員トス」ト云フコトガアリマス、若シ貸付ノ無い御料地ハ、ドウ云フコトニナリマスカ、組合外ニナリマスカ、其邊ノコトヲ政府委員ニ御質シナリマシタカ、ドウカ、伺ヒタイト思ヒマス

○男爵高木兼寛君 御尋ネノコトハ質問中ニハゴザイマセヌデシタ、貸付者ナキ土地ノコトハ、何等ノ質問モ無シ、又説明モゴザイマセヌデシタ、ソレ故ニソレニ付イテハ政府委員ノ御答辯ヲ煩ハシマス

〔政府委員西村保吉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西村保吉君) 唯今ノ御尋ネニ御答ヲ致シマスガ、此第三條ノ但書ノ場合ニ於キマシテハ、貸付ヲ受ケタ者ヲ組合員トスルト云フコトニナッテ居リマスルノデ、若シ貸付ヲシテナカッタナラバ、其御料地又ハ國有地ハ組合ニ這入リマセヌ

〔石井省一郎君「モウ少シ高ク願ヒマス、聴エマセヌ」ト述フ〕

……此第三條ノ但書ノ場合ニ於キマシテハ、御料地又ハ國有地ノ貸付ヲ受ケテ居ル所ノ者ヲ組合員ト致シマスノデ、若シ貸付ヲ受ケテ居ル者ガ無カッタナラバ、其儘デ組合ニハ這入リマセヌコトニナルノデアリマス

○田中芳男君 本員モチヨット御尋ネ致シタウゴザイマス、先刻ノ委員長ノ御説明ニ、組合ハ二十バカリホカ無イ、其中デ成功シタモノガ七ツ有ルト云フヤウナコトヲ承リマシタガ、北海道ノ組合ト云フモノハ、二十ダケデモウ全備シタノデゴザイマスカ、又ハ是カラ續々出來ル譯デゴザイマスカ、此二十サハ全備スレバ、モウ北海道中、世話ヲ焼ク所ハ無クナル譯デスカ、ソレヲドウカ承リタイ

〔政府委員西村保吉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西村保吉君) 土功組合法ハ、先刻モ委員長カラ御報告ニナリマシタ通り、明治三十五年ニ發布ニナリマシテ、爾來、組合ノ成立ト云フモノハ甚ダ遅々トシテ居リマスガ、近來北海道ニ於キマシテモ、水田ヲ開發イタシマシテ、米作ト云フモノガ確實ニ行ハレルト云フコトガ、試験ノ結果、竝ニ地方當業者ノ實驗ノ結果ニ基イテ、段々明カニナッテ參リマシタノデ、此最近數年間ニ於キマシテ、大ニ此水田開發ノ氣風ガ勃興シテ參リマシタノデゴザイマス、ソレデ此最近數年間ニ於キマシテ、土功組合ヲ組織シテ、水田ヲ作ルト云フコトガ、段々ニ増進ヲ致シマシタノデ、是カラ先キ將來ニ於キマシテハ更ニ此組合ヲ設立イタシマシテ水田ヲ設クルト云フコトガ、追々ニ行ハレテ來ルデアラウト考ヘマス、随ッテ此法律ノ改正ハ、既往ニ於ケル組合ニ對シテヨリハ、將來ニ對シテ大ニ必要ヲ感ズルコト、考ヘマス

○子爵高野宗順君 チヨット私モ質問ヲシタインデス、此第六條ニ「區町村

長又ハ戸長ニ於テ」云々トアリマス、北海道ニハ町村制ヲ施カレテ居ルカト思ヒマス、然ルニ戸長ト云フモノガアル、成ルホド北海道ハ内地ニハ違ヒアリマセヌガ、幾分離レテア、云フ所デアリマスカラ昔ノ戸長ト云フモノガ殘ッテ居ルノカ知リマセヌガ、若シ果シテ殘ッテ居ルナラバ、元ノ昔ノ戸長ト云フモノハ、何箇町モ兼ネテ戸長ガ置イテアル、丁度今ノ區長ニ等シイヤウナ者ト思ヒマスガ、北海道ニ於テハ、戸長ト云フモノハ町村長ノ下ニアルヤウデアリマスガ、サウスルト何箇町ニ付イテ置クト云フヤウナモノデアリマスカ、ドンナモノデアリマスカ、果シテ戸長ガ有ルノデアリマスカ、有リマスルナラバドウ云フコトニナッテ居リマスカ、ソレヲチヨット委シク伺ヒタイ、町村制ガ施カレテ居リマスノニ戸長ト云フハ珍ラシウゴザイマスカラ、チヨット伺ッテ置キタイ

〔政府委員西村保吉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西村保吉君) 北海道ニ於キマシテハ、一級町村制及二級町村制ト云フ勅令ガ施行ニナッテ居リマス、併ナガラ其一級町村制及二級町村制ハ、内地ニ於ケル町村制ヨリハ餘ホド程度ノ低イ規定デゴザイマシテ、北海道ノ如キハ御承知ノ如ク、尙ホ人口稀薄ニシテ拓殖ノ中途ニアル地方デゴザイマス、其地方ガ相當ニ住民ガ増加ヲ致シマシテ、團體トシテ働クコトヲ得ベキ程度ニ達シタトキニ、始メテ町村制ヲ施行スルコトニナル、随ッテ今日ハマダ一級町村制モ二級町村制モ施行シテナイ地方ガアリマスノデ、斯ノ如キ地方ニ於テハ古イ時代ニ内地ニ行ハレテ居ッタ同ジ性質ノ戸長制度ガ行ハレテ居リマス、戸長ガ數町村ヲ合セテ管轄シテ居リマス、ソレガ段々進歩シテ參リマスレバ、二級町村制ヲ施キマス、二級町村制ヲ施イテ後ニ尙ホ進歩ノ情況ガゴザイマスレバ、更ニ一級町村制ヲ施キマス、唯今ノ戸長ハ古イ時代ノ内地ノ戸長ト同ジデ、町村ニ對スル仕事ヲシテ居ル者デアリマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ、第二讀會ニ移ルベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○西村亮吉君 直チニ二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○男爵田健治郎君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第二讀會ヲ開イテ御異議ハゴザイマセヌ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ハ無イト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 全部、御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ハナイト認メマス

○西村亮吉君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵曾我祐準君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者多シ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第二讀會ヲ開イテ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通りテ御異議ゴザイマセヌカ

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通りテ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第十、警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員長

子爵 裏松 良光

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔子爵裏松良光君演壇ニ登ル〕

○子爵裏松良光君 唯今議題ニ上ボツテ居リマスル案ニ付キマシテ委員會ノ經過ヲ御報告イタシマス、委員會ハ昨日正副委員長ノ選舉ヲ致シマシテ引續イテ委員會ヲ開キマシタ、政府委員ノ出席ヲ求メマシテ詳細ニ説明ヲ聞キ、又委員諸君ヨリモ委シク質問モゴザイマシタ、此度警部補ヲ置カレマスノハ巡查ノ採用ガ近來餘リ希望スル者ガ少ナクテ困難デアル、又一時就職ヲ致シマシテモ職ヲ辭スル者ガ随分ゴザイマス、是ガ警察上ニ於キマシテ誠ニ困難ヲ感ズル次第デ、之ニ付キマシテ、巡查ノ獎勵ノ一ツノ方法トシテ巡查ノ定員中ヨリ幾分ヲ判任官ニ任ズルト云フコトニスル必要ガアル、ソレダニ依ツテ警部補ヲ設ケラレルト云フコトニナツタ次第デアリマス、ソレニ付キマシテ此退隱料及遺族扶助料ヲ警部補及其遺族ニモ準用スルト云フ法案デアリマス、委員會ニ於キマシテハ適當ナルモノト認メマシテ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ、此段御報告イタシマス、此案ハ極簡單デゴザイマスカラ御異議ガ無ケレバ讀會省略ヲ以テ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○伯爵大原重朝君 讀會省略賛成

○子爵山口弘達君 賛成

○男爵關義臣君 賛成

○田中芳男君 賛成

○子爵山本實庸君 賛成

○子爵大久保忠順君 賛成

○男爵高木兼寛君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 讀會省略ノ動議ハ定規ノ賛成者ガアリマシタ、讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略セラレマシタ

○副議長(侯爵黒田長成君) 本案全部、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 御委託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔仙石書記官朗讀〕

會計検査院法中改正法律案特別委員

子爵渡邊 昇君 子爵内田 正學君 子爵實吉 安純君

子爵松平 忠禎君 男爵北島 齊孝君 何 禮之君

得能 通昌君 磯邊 包義君 下郷 傳平君

電氣事業法案特別委員

伯爵柳原 義光君 子爵鳥居 忠文君 子爵有馬 頼之君

淺田 德則君 男爵田 健治郎君 男爵中島 久万吉君

千坂 高雅君 石黒 五十二君 市川 文藏君

○副議長(侯爵黒田長成君) 一應休憩ヲ致シマス

午後零時十七分休憩

午後一時六分開議

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ午前ニ引續イテ開會イタシマス

○男爵久保田讓君 是ヨリ營業稅ノ方ノ委員會ヲ開キタウ存ジマス、御許シヲ願ヒマス

○男爵相浦紀道君 銃砲火藥類取締法改正法律案ノ委員會ヲ是ヨリ開會イタシタウ存ジマスガ、御差支ゴザイマセヌケレバ許可ヲ願ヒタウゴザイマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 久保田男爵、相浦男爵ノソレノ御申出ニ對シテハ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ガ無イト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 日程第十一、輕便鐵道法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

輕便鐵道法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十七日

右特別委員副委員長

男爵 田 健治郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔男爵相浦紀道君「銃砲火藥ノ委員ノ御方ハ委員會室ヘ御出デヲ願ヒマス」ト述フ〕

〔男爵田健治郎君演壇ニ登ル〕

○男爵田健治郎君 唯今議題ニナリマシタ輕便鐵道法案ノ報告ニ當リマシテ委員長唐橋子爵ガ差支ガアリマシテ御不參デアリマス、ソレユエ私ヨリ御報告申上ゲマス、此委員會ハ去ル十六日ヲ以テ正副委員長ノ選舉ヲ行ヒマシテ昨十七日ヲ以テ委員會ヲ開會イタシマシタ、當局大臣及政府委員ヨリモ、ソレノ説明モゴザイマシタ、續イテ各委員ヨリモ頗ル精細ナル質問モゴザイマシテ政府ノ説明モ承ツタ次第デアリマス、其説明及質問ノ大體ヲ綜合イタシマシテ本案ノ大要ヲ申上ゲマスレバ、此鐵道ノ事業ハ現今ニ在リマシテハ、私設鐵道法ニ依ッテ支配セラル、所ノ普通鐵道ト、軌道條例ニ依ッテ支配サレマスル所ノ軌道ト、此兩様ニ別ッテ居ルノデゴザイマス、然ルニ時勢ノ要求ハ、ドウシテモ此兩鐵道ノ中間ニ位スル所ノ、即チ此輕便鐵道ノ必要ヲ大ニ感じテ居ルノデアリマス、其理由ハ普通鐵道ニアリマシテハ、御承知ノ通り頗ル多額ノ敷設費ヲ要シマスルシ、シマスルデ、容易ニ此地方ノ僻遠ノ地マデ普及セシメルト云フコトハ出來マセヌ、而シテ又軌道條例ニ依ル所ノ軌道ハ、是ハ先ヅ主トシテ市街地ナドニハ行ハレズシテ、市街地ニ接續スル郡村ニハ行ハレマスルガ、要スルニ是ハ道路ノ上ニ敷設スルト云フノ目的デアリマスルガ故ニ、速力ノ點ニ於キマシテモ八哩ト云フヤウナ極メテ遲緩ナル速力ヨリ有スルコトハ出來マセヌ、又列車ノ編成モ出來マセヌ、ソレ故ニ少シク遠距離ノ所ニ參リマスルヤウナコトニ付イテハ、餘ホド速力ナリ、列車ノ編成ノ制限ガアリマスル故ニ、不便ヲ感ズルノデアリマス、デ此不便ヲ補フ爲ニハ、ドウシテモ此中間ニ位スル所ノ輕便鐵道ト云フモノガ無クテハナラヌ、是ハ世界ノ文明國ニ於テモ何レニ於テモ盛ンニ行ハレテ居ル事實デアリマス、ソレ故ニ此案ヲ提出シテ時勢ノ要求ニ應ズルノデアルト申スノガ原案ノ大要デアリマス、ソレニ付キマシテ委員ヨリモ種々ノ質問ガゴザリマシタガ、一々御報告スル程ノコトハ煩雜ニ互リマスカラ、是ハ御報告イタシマセヌガ、其大要ニ付イテ二三申上ゲマスレバ、此輕便鐵道ハ普通鐵道ノ

如ク株式會社デナクテハ許サスト云フヤウナル制限ハシナイ積リデアル、即チ一個人デアッテモ、若クハ市町村ノ如キ公共團體ト云フヤウナモノデモ、之ヲ敷設スル場合ニ於テハ許可スル見込デアル、是ガ普通鐵道トハ大ニ異ナル點デアリマス、ソレカラ又此第六條ニ「鐵道營業法ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス」ト衆議院デ直ッテ居リマスガ、此營業法ヲ準用シタ結果、或ハ運輸規程ニ於テ普通鐵道ト同様ナルヤウナル檢束ヲ受ケタル日ニハ輕便鐵道トシテハ餘リ煩雜ニ互ッテ不便ヲ感ズルヤウナコトハ無カラウカト云フ間ニ對シテハ、ソレハ命令デ決メルコトデアルカラシテ、成ルベク政府ハ簡易ナル方法ヲ採ッテ別ニ立テ、即チ輕便鐵道ニ於テハ、サウ煩雜ヲ感ジナイヤウナル仕組ヲ立テル積リデアル、斯ウ云フコトデゴザリマシタ、ソレカラ各委員ノ中カラ最モ念ヲ入レテ深ク質問イタシマシタ點ハ、此附則ノ末項ニゴザイマスル本法施行前免許ヲ受ケ又ハ特許ヲ受ケタル鐵道ナリ軌道ナリモ將來本法ニ依ラシムヘキモノハ主務大臣之ヲ指定スルコト云フ點デアリマス、即チ新舊ノ接續ハ如何ナルモノデアルカト云フコトニ付イテハ、種々ナル事例ヲ舉ゲテ質問ガゴザリマシテ、之ニ對シテ當局大臣モ種々ナル事例ヲ舉ゲテ答ヘラレマシタガ、要スルニ此點ニ於キマシテノ趣旨ヲ申シマスルト云フト、此普通鐵道若クハ軌道及今度出來ル所ノ輕便鐵道、是ニハソレト持チ前ガアル、ソレデアリマスルガ故ニ、唯今申ス通り軌道條例ニ依ッテ許サレテ居ルモノハ寧ロ輕便鐵道法ニ依ッテ更ニ願ヒ替ヲシタガ便利デアルト云フヤウナル場合ニ於テモ、必シモ之ヲ直グニ許スト云フヤウナル譯ニハ行カナイ、即チ各、其性質ニ應ジテ當初ヨリ輕便鐵道デ許サルベキヤウナモノニ適合シタルモノデアッタナラバ、既往ノ分ト雖モ無論輕便鐵道トシテ許スノデアラウ、ケレドモ當初ヨリ軌道條例ニ依ルベキ筋ノ如キ事實ノ如キモノガ今俄ニ輕便鐵道ガ出來タガ故ニ、輕便鐵道ニ依ッタ方ガ宜イト云フコトデ、撰リ食ヒニ來テモ、其實ガ輕便鐵道ニ適合セザル以上ハ、之ヲ軌道條例ヨリ省イテ輕便鐵道法ニ依ッテ許可スルト云フ譯ニハ參ラス、要スルニ是ハ實地問題デア、其實地問題タルヤ、輕便鐵道ノ性質ガアル、ソレニ適合スルヤ否ヤト云フ所ヲ以テ許否ヲ區別スル譯デア、斯ウ云フコトノ政府ノ答辯ニ歸著スルノデアリマス、其他種々ノ質問ガゴザリマシタガ、先ヅ大要ハ其クラキニ報告ヲ止メテ置ク積リデアリマス、デ是ニハ衆議院ノ少シノ修正ガゴザリマス、第四條及第六條ニ少シノ修正ガアリマスガ、第四條ノ修正ハ、線路ヲ道

路上ニ設クルコトハサセナイ、但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス」ト云フヲ「已ムヲ得サル」ト云フヲ「必要ナル場合ニ於テ」ト云フコトニ衆議院ハ直シタニ過ギマセス、是ハ衆議院ノ意思ハ「已ムヲ得サル」ト云フコトニナルト、餘リ堅苦クナル、デ、必要ノ場合クラキニシテ置イタナラバ、餘リ堅苦イ傾キヲ緩和スルノデアアルカラ、ソレデドウセ主務大臣ガ許スノデアアルカラ、事實差支ハ無カラウカラト云フ意味ノ趣旨デア、依ッテ、政府ハ無論之ニ同意デア、敢テ反對シナイ、又第六條ノ「鐵道營業法ハ之ヲ輕便鐵道ニ適用ス」トアリマスヲ「鐵道營業法ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス」ト直シタノデアリマス、是ハ詰リ適用ノ分モアリ、準用ノ分モアル、ト、細ニ言ヘバ申シテモ宜イヤウデアリマス、各條ニ付イテ調べテ見マスレバ、兎ニモ角ニモ別種ノ鐵道營業ハ普通鐵道ニ適用スル所ノモノハ之ヲ用キナイト云フノデアリマスカラ「準用」トシタガ、或ハ穩カデアアルカモ知レヌノデア、政府ハ是モ異存ハ無イ、斯ウ云フコトデゴザイマス、デ、詰リ斯ク質問應答ノ結果、全會一致ヲ以テ此案ハ今日ノ時勢上極メテ必要ナモノデアルト云フコトデ、原案即チ衆議院ノ送付案ノ通りニ可決イタシタノデゴザイマス、ソレデ事柄ハ頗ル重要ナルコトニハ相違ゴザイマセスガ、我々委員會ニ於キマシテ、審査シタ結果ニ依リマスルト云フト、事理ハ極メテ判明ナルモノト存ジマスルカラ、願ハクハ讀會ヲ省略シテ御可決ヲ願ヒタウゴザイマス、此段御報告ニ兼ネテ希望ヲ申述ベテ置キマス

○田中芳男君 チョット委員長ニ御尋ネ致シマス、唯今委シク御説明ニナリ

マシテ委細分リマシタガ、本員ハ全體斯ウ云フコトニハ甚ダ不案内デ、是ノ

原動力ハ何デ出來テ居ルカ一向分リマセス、原動力ハ馬デアアルカ鹿デアアルカ、ドンナモノデ動カスモノカ伺ヒタイ、又近頃新聞ナド見マスト單軌鐵道ナド、云フモノガ出來マシタ、アレナドヲ指シテ輕便ト稱ヘルカ知ラスト思ヒマスガ、其邊ヲチョット伺ヒマス

○男爵田健治郎君 田中君ノ御尋ネノ原動力ノコトハ別段質問ハ無カッタヤウニ存ジマスガ、併ナガラ私ノ信ジタ所ニ依リマスト原動力ニ關係イタシマセス、今日デハ普通鐵道ニ於キマシテモ昔ノ様ニ蒸氣力ニ依ルト云フコトデハナクシテ、亞米利加ナドデハ盛ニ電氣動力ニ依ッテ居ルト云フ例モアリマス、ソレデアリマスガ故ニ此輕便鐵道ハ或ハ蒸氣力ニ依ラウガ、或ハ電氣力ニ依ラウガ、ソレ等ノ原動力ニ於テハ如何ナルモノヲ用キヤウトモ、是カ

ラ如何ナル發明ガ出來ヤウカ知レマセヌガ、ソレニハ關係ノ無イト云フ次第ト存ジマス、ソレヨリ以上若シ御尋ネガアリマスレバ政府委員ニ御質問ヲ願ヒタウゴザイマス、ソレダケデゴザイマシタカ、モウ一ツアリマシタカ……

〔讀會省略ニ賛成ト呼フ者アリ〕

○子爵堀田正養君 チョット政府委員ニ伺ヒタウゴザイマス、此輕便鐵道ノ軌道ノ幅員ト云フモノハ、凡ソ此クラキマデハ許ストカ、何カソコニ決定ニナツテ居ルコトガアルノデゴザイマス、又ソレニ付イテハ目方トカ云フモノモ、凡ソ此クラキノモノトカ、或ハ是マデ在ル所ノハイロ／＼アルヤウデアリマスガ、將來斯ウ云フ見込デアルト云フヤウナコトガ御決マリニナツテ居ルノデゴザイマセウカ

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 此輕便鐵道法ニ於キマシテハ「ゲーチ」ハ限リマセヌデアリマス、唯今ノ普通鐵道ヨリ廣キモノモ狹キモノモ許ス積リデアリマス、是ハ地方ノ運輸ノ情況ニ依リマシテ此廣イ「ゲーチ」デ運輸ヲスル方ガ便利デアル所ニハソレヲ許ス積リデアリマス、ソレカラ「レール」ノ如キモノモ其運輸スルモノ、狀態ニ依リマシテ四十「ポンド」デアラウトモ六十「ポンド」デアラウトモ、ソレハ自由ニ許ス積リデアリマス、唯條件ヲ付ケテ、最モ輕便ニ最モ經濟上ニ利益アルヤウニ致シテ許可スルニモ又運輸營業ヲスルニモ簡便ニサセル積リデアリマス

○子爵堀田正養君 チョット序デニモウ一ツ、ソレデハ聯結トカ云フコトニ付イテ何カ御決マリガアリマス、二臺以上トカ三臺トカハ許サストカ何トカ、此「ゲーチ」「レール」ノ目方ニ依ツテハ重量ノモノハ聯結ハ出來マスマイガ「レール」ノ目方ノアルモノヲ使フ以上ハ凡ソ幾臺マデ聯結ヲ許ストカ何トカ云フ大概御内規ガアリマスレバ、ソレヲチョット伺ヒタイ

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 御答イタシマスガ、此列車ノ聯結ノコトハ軌道ニ於テハ制限ガアリマス、ソレ故ニ甚ダ不便ヲ感ジテ居リマスガ、是ハ市街内ナドニ於テハ必要デアリマスガ故ニ制限ヲ置イテアリマス、併ナガラ輕便鐵道ニ於キマシテハ列車編成ヲ許シマス、其編成ノ程度ハ地方ノ情況ニ依ツテ酌量ヲ致シテ參ル積リデアリマス

○子爵梅小路定行君 讀會省略賛成

○男爵辻新次君 賛成

○子爵本莊壽巨君 賛成

○湯地定基君 賛成

○小牧昌業君 賛成

○男爵高木兼寛君 賛成

○淺田德則君 賛成

○下條正雄君 賛成

○男爵茨木惟昭君 賛成

○佐藤秀藏君 賛成

○中島永元君 賛成

○副議長(侯爵黑田長成君) 讀會省略ニハ定規ノ賛成者ガゴザイマシタ、讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略セラレマシタ

○副議長(侯爵黑田長成君) 本案全部、御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黑田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 第十二、各國國勢調査事業視察ニ關スル建議案、伯爵柳澤保惠君發議、會議

〔仙石書記官朗讀〕

各國國勢調査事業視察ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十三年三月十六日

發議者 伯爵柳澤 保惠
賛成者 伯爵正親町 實正
外七十二名

貴族院議長公爵德川家達殿

各國國勢調查事業視察ニ關スル建議

政府ハ明治四十三年度豫算ニ於テ國勢調查準備委員會費ヲ計上シ今ヤ兩院ノ協賛ヲ經タリ本年ハ歐米諸國ノ國勢調查期ニ該當スルヲ以テ此ノ際本邦國勢調查事業ノ參考ニ資スル爲適當ナル人物ヲ歐米ニ派遣シ親シク調査事業ヲ視察セシメラレムコトヲ望ム仍テ茲ニ之ヲ建議ス

理由書

政府ハ本邦國勢調查實行ノ準備トシテ委員會設置ノ費目ヲ明治四十三年度豫算ニ計上シ今ヤ兩院ノ協賛ヲ經タリ本年ハ西曆千九百十年ニ當リ歐米諸國本年末日ヲ期シテ國勢調查ヲ施行セムトスルヲ以テ此ノ際專攻ノ學者ヲ歐米各地ニ派遣シ親シク實際ノ有様ヲ視察セシムルハ本邦將來ノ國勢調査ノ實行上頗ル必要ノ事ト信ス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

○伯爵柳澤保惠君 本案提出ノ理由ヲ陳述シタイト思ヒマス、宜シウゴザイマスカ

○副議長(侯爵黑田長成君) 宜シウゴザイマス

○伯爵柳澤保惠君 此所デ宜シウゴザイマスカ

○副議長(侯爵黑田長成君) 成ルベク演壇ニ御出デヲ願ヒマス

〔伯爵柳澤保惠君演壇ニ登ル〕

○伯爵柳澤保惠君 各國國勢調查事業視察ニ關スル建議案、本案提出ノ理由ハ配付ニナリマシタ理由書ニ書イテゴザイマスガ、聊カ理由ヲ敷衍イタシマシテ諸君ノ御賛成ヲ請ハウト存ジマス、御承知ノ通りニ本年提出ニナリマシタル來年度ノ豫算ニ於キマシテハ八千圓ト云フ金額ガ國勢調査準備委員會費トシテ計上ニナリマシテ、既ニ兩院ノ協賛ヲ經タ譯デゴザイマス、此經費タルヤ誠ニ小額デハゴザイマスケレドモ、併ナガラ是ハ當院ノ建議ヲ容レラレマシタコト、又政府ニ於キマシテ此事業ノ最モ必要デアルト云フコトヲ認メラレテ、詰リ將來ニ於テ實行サレベキ御考慮ガアツテ斯ノ如キモノガ出タラウト存ジテ居リマス、此問題ハ諸君ノ十數年來御馴染ノ問題デゴザイマシテ、御承知ノ如クニ衆議院ニ於キマシテ既ニ十數年前ニ請願モ出マシテ通過ヲ致シマシタ、當院ニモ出マシタガ、其時ハ會期切迫デアリマシタカ、或ハ他ノ都合デゴザイマシタカ請願ハ採擇ニナリマセナシタガ、其後衆議院、竝ニ當院ニ於キマシテ建議案ガ出マシテ、是ハ通過イタシマシタ、尙ホ最後ニ明治三十五年法律第四十九號ト云フモノヲ以チマシテ法律トナリマシタ、是

ハ衆議院ヨリ提出ノ國勢調査ノ案ガ是亦兩院ヲ通過シタ譯デゴザイマス、併ナガラ不幸ニ致シマシテ今日マデハ其實行ヲスル機ガ無カッタデゴザイマス、否、無カッタノデハゴザイマスマイガ、種々他ノ方ノ國務ニ追ハレテ此實行ヲ見ルコトガ出來ヌヤウニアッタラウト考ヘマス、其上ニ此明治三十五年法律第四十九號ハ其第三條ニ於テ會テ改正ガゴザイマシテ國勢調査實行ノ期ヲ勅令ニ讓ッタノデゴザイマス、故ニ何時是ガ實行ニナリマスカハ法文ノ上ニハ分リマセスケレドモ、併ナガラ今般ノ豫算ノ上ニ些カナリトモ此國勢調査準備委員會費ナルモノガ計上サレマシタ所ヲ以テ考ヘマス、必ズ是ハ近キ將來ニ於テ此實行ノ議ガ政府ニ於テ起ッタコト、存ジテ居リマス、加之、戰後ノ經營モ著々緒ニ就キ、又國家必要ナル所ノ種々ノ事業モ段々ト是カラ實行サレル場合デアリマスカラシテ、竊ニ信ジマスノニ此國勢調査ノ事業モ必ズ將來アルコト、考ヘテ居リマス、併ナガラ此國勢調査事業ナルモノハ我國ニ於テ甚ダ經驗ガ無イノデゴザイマス、無クモアリマセヌガ先ヅ甚ダ乏シイノデアリマス、唯局部ニ於キマシテ本國ニ於テモ既ニ數回ニ似タ所ノ調査ガアッタダケデアリマス、明治十二年ニ於キマスル所ノ甲斐國ノ人別調ノ如キハ第一著デアリマシテ、其後ハ大分離レマシテ三十八年十月一日ニ於キマシテ、臺灣ニ於キマシテ戶口調査ノ名目ヲ以テ謂ハル今日ノ國勢調査的ノ大事業ガ行ハレタノデアリマス、是ハ既ニ其事業ガ終リマシテ立派ナ報告ガ澤山出テ居リマス、續イテ熊本市ニ於ケル所ノ小部分デハアリマスガ職業調査、又東京市ニ於キマスル所ノ市勢調査、神戸ニ於キマシテノ市勢調査、札幌ニ於キマシテノ區勢調査、又昨年ニ於キマシテハ佐渡ノ島勢調査、是ハソレノ名ハ違ヒマスケレドモ、是ハ皆近世ノ學理ニ基キマシタ所ヲ應用シテ行ハレタノデアリマス、斯ノ如ク諸所ニ小部分ノ國勢調査的ノ事業ガ行ハレテ居リマス、是ハ極小部分デアリマシテ、是等ノ經驗ヲ以テ將來國勢調査事業ノ參考ト爲スニハ甚ダ乏シイモノデアリマス、故ニ此建議案ヲ出シマス必要ガ其所ニ在リマスノデ、是ハ歐米各國ニ於キマシテハ數十年乃至百年ニ近イ所ノ經驗ガアリマスカラシテ、何レモドノ國ニ於キマシテモ國家アレバ必ズ國勢調査アリト云フ殆ド考ヘテ有チマシテ、今日マデ何レニ於キマシテモ五年乃至十年ノ期間ヲ以テ著々誤ラズニ實行ヲナシテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ經驗ニ依リ、斯ノ如キ所ノ事情ニ依リ出來タ所ノ事柄デアリマスルガ故ニ、本邦ノ國勢調査事業ニ取ツテハ、從來ノ實驗上ニ於キマシテ

モ必要ナル所ノ參考材料ト考ヘマスル、ソレデ本年ハ西曆千九百十年デゴザイマシテ、丁度此時ニ於キマシテ歐米各國ノ殆ト十箇國ホドハ同日デハゴザイマセヌガ、或ハ十月一日、或ハ十二月三十一日、或ハ次年ニ跨リマシテ一月一日ト云フ日ニヤル、先ヅ當年末ニ於キマシテ各國十箇國ガ國勢調査ヲヤル積リデ、勿論國勢調査ト申シマシテモ、意味ニ於テ非常ニ廣イ意味ト狹イ意味トアリマシテ、一概ニハ申サレマセヌデスガ、先ヅ本邦デヤラウト云フ國勢調査ノ參考ニ最モ樞要ナモノデアリマス、即チ此外國ニ於キマシテ零ヲ以テ終ル所ノ年ニ於テ慣例トシマシテ國勢調査ノ事實ガ現レテ、即チ十箇國ハ今年ノ末デアリマスガ、尙ホ外國デハ一ヲ以テ終ル所ノ年ニ於テ國勢調査ヲスル國ガアリマス、即チ來年ニナリマス、數箇國ノ國勢調査ガゴザイマス、併ナガラ來年ニ於キマス所ノ國勢調査ハ時期ガ春デアリマシテ……十二月トカ或ハ十月トカ云フヤウナ極年ノ終リニナッテ居リマセヌ、是ハ五六箇國デアリマス、故ニ殆ト本年度ニ實行サレル調査ハ僅カ數月ノ範圍ヲ以テマシテ十七八箇國ニ行ハレル譯ニナッテ居リマス、其國名ヲイヨット申上ゲマスレバ本年ニ於キマシテハ埃地利匈牙利、獨逸、瑞西、亞米利加、諾威、瑞典、ソレカラシマシテ此前ノ例ニ依ルト「ルーマニヤ」、西班牙モアルト思ヒマス、來年度ノ初ニハ白耳義、丁抹、佛蘭西、英吉利、伊太利、是ハ皆三月以前デアリマスルカラシテ、殆ト當年十月カラ來年三月頃マデニハ前申上ゲマシテ十數箇國ノ國勢調査國ガアル譯ニナッテ居リマス、斯ノ如キ所ノ好時機ハ今日ヲ措キマシテハ以後十年ヲ經ナケレバ十分ナルコトヲ得ラレヌ次第デアリマス、然ルニ私ドモノ希望トシテハ近キ將來ニ於テ國勢調査ノ實行ヲ内地ニ望ムノデアリマスガ、マサカ政府デハ十年以後マデハ引延バスコトハアルマイト思ヒマス、財政上ノ御都合ハ始終承ルノデゴザイマスガ、私ドモ信ジマス所デハ少ナクモ十年以内ニアルダラウト思ウテ居リマス、シテ見レバ十年以外ノ時期ヲ待タズシテ丁度本年斯ノ如キ所ノ國勢調査ヲ十分ニ觀察スルコトハ最モ得難イ時デアラウト考ヘマス、ソレデ此觀察ト云フコトニ付イテハ得難イ時機デアリマスルカラ、即チ茲ニ於テ相當ナ人物ヲ選拔セラレテ之ヲ觀察セラレタイ、併ナガラ此國勢調査ノ事業ハ一日ヲ以テ終リマスルモノデハアリマセヌノデ、御承知ノ如クニ調査ノ期日ハ或ル一定ノ日ヲ規定シテアリマスグレドモ、其調査ヲシマスニ付イテハ前後ノ準備ハ少ナクモ三年乃至五年、長キハ七年モ掛カルノデアリマス、私ノ申シマス觀察ノ人物ト

云フモノハ左様ニ長イ間外國ニ居ルト云フ譯デハアリマセヌ、此國勢調査ノ時期ノ始マリマスル前後ニ於テ即チ準備ノ事業ハ、ドウ云フ風ニナッテ居リ、調査ノ技術ハドウデアルカ、又調査ノ時日以後ノ情況ハドウナッテ居ルカ、ソレニ付イテ各國ノ統計樣式デアリマスルトカ、或ハ其調べニ要スル所ノ種々ノ必要ナル所ノ材料ヲ調査期日前後ニ於テ蒐集シ之ヲ以テ參考ニシタイト云フノガ趣意デゴザイマス、斯ノ如キコトデアリマシテ今日ガ最モ時機ヲ得タ時デアリマスカラ私ガ本案ヲ提出シタ譯デアリマス、先ヅ要領ハ斯ノ如キモノデアリマスル、御質問等ガアリマスレバ私ガ御返事ヲ致シマスルガ、何卒簡明ナル案デアリマスルカラ、委員會ニ御付託ニナラズニ、全會ノ大多數ヲ以テ御即決アラムコトヲ希望スルノデアリマス

○馬屋原彰君 此建議案ニ付キマシテハ即決ノ御意見モアリマシタガ、之ニ贊成イタシマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 是ハ唯今、柳澤伯爵カラ御述ベニナリマシタコトニ對シテ、別段御發議ガ無ケレバ本建議案ヲ可トスルヤ否ヤノ決ヲ採ラウト思ヒマス、本建議案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半数ト認メマス、可決セラレマシタ、明日モ會議ヲ開キマスガ、日程ハアトヨリ本院彙報ヲ以テ御報道ニ及ビマス、本日ハ散會ヲ致シマス

午後一時三十九分散會